

決算説明会

2026年3月期 第1四半期

ミネベアミツミ株式会社

2025年8月5日

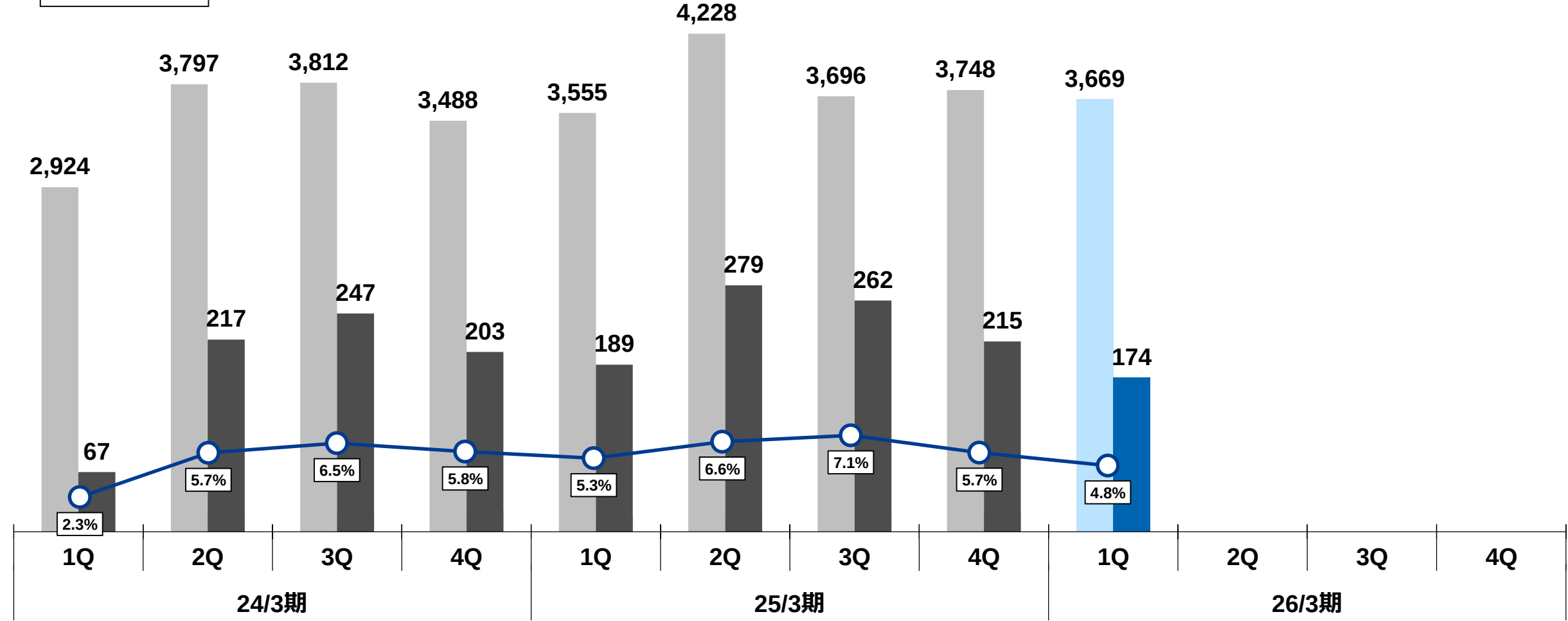
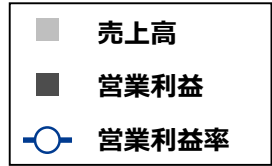
売上高、営業利益とも計画を上回る 売上高は1Qとして過去最高

(億円)	2025年3月期		2026年3月期	前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	1Q	4Q	1Q		
売上高	3,555	3,748	3,669	+3.2%	-2.1%
営業利益	189	215	174	-7.8%	-19.0%
税引前利益	182	227	156	-14.5%	-31.3%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	131	170	109	-17.2%	-35.8%
基本的1株当たり 四半期利益 (円)	32.51	42.25	27.12	-16.6%	-35.8%

為替レート	2025年3月期		2026年3月期
	1Q	4Q	1Q
US\$	153.14円	154.11円	146.16円
ユーロ	165.45円	160.51円	162.02円
タイバーツ	4.21円	4.53円	4.36円
人民元	21.16円	21.12円	20.14円

売上高、営業利益、営業利益率

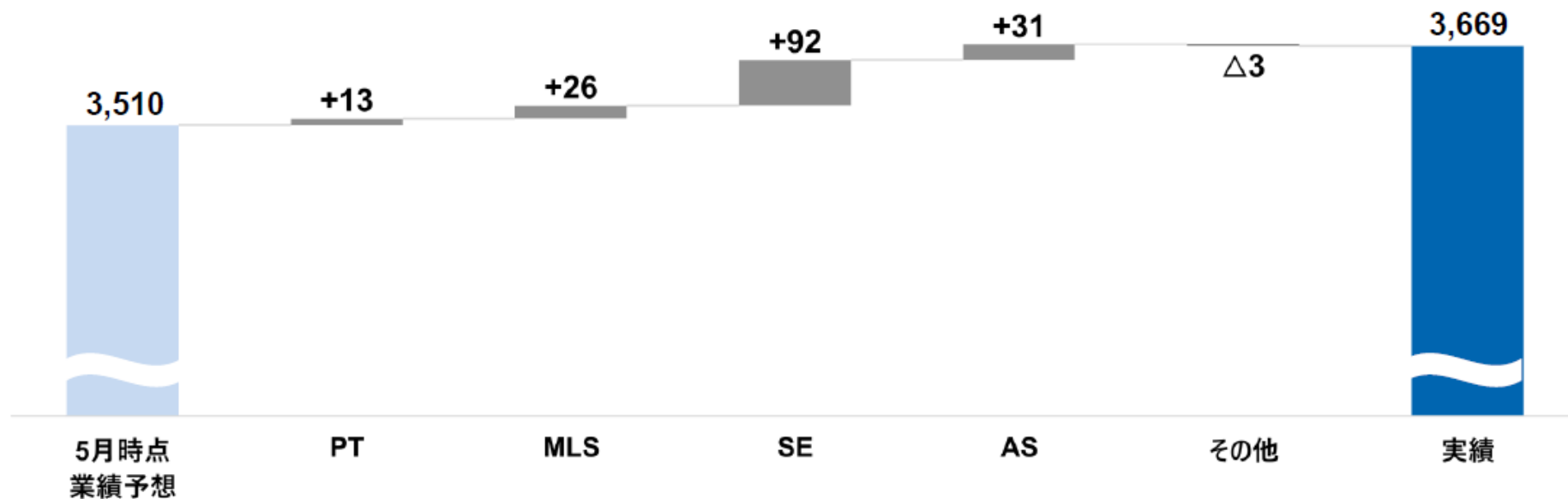
(億円)



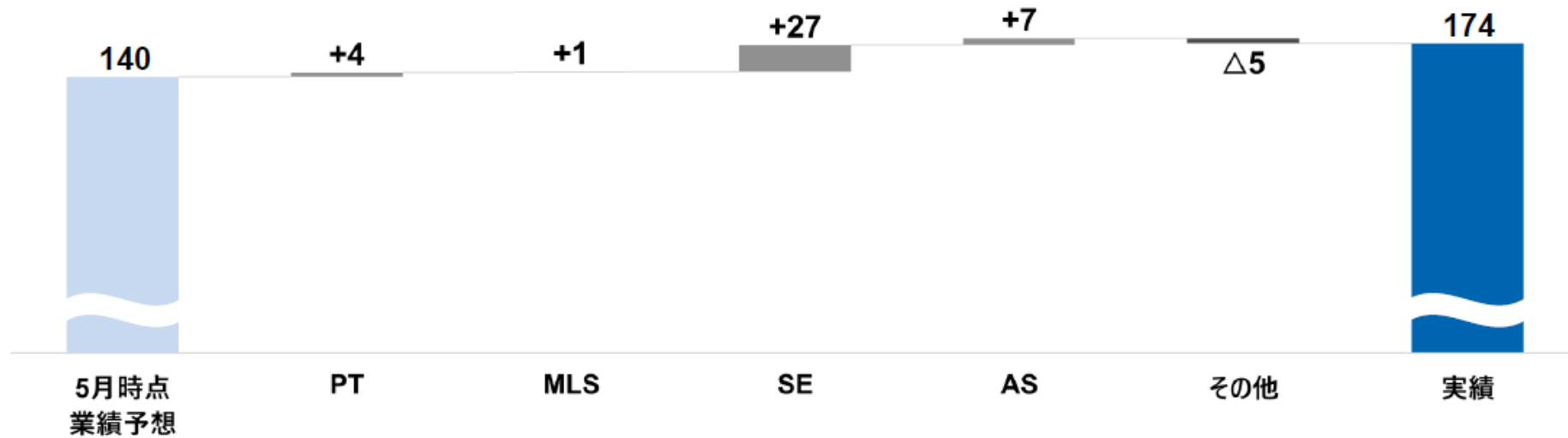
1Q実績 前回予想（2025年5月9日）からの差異

(億円)

売上高

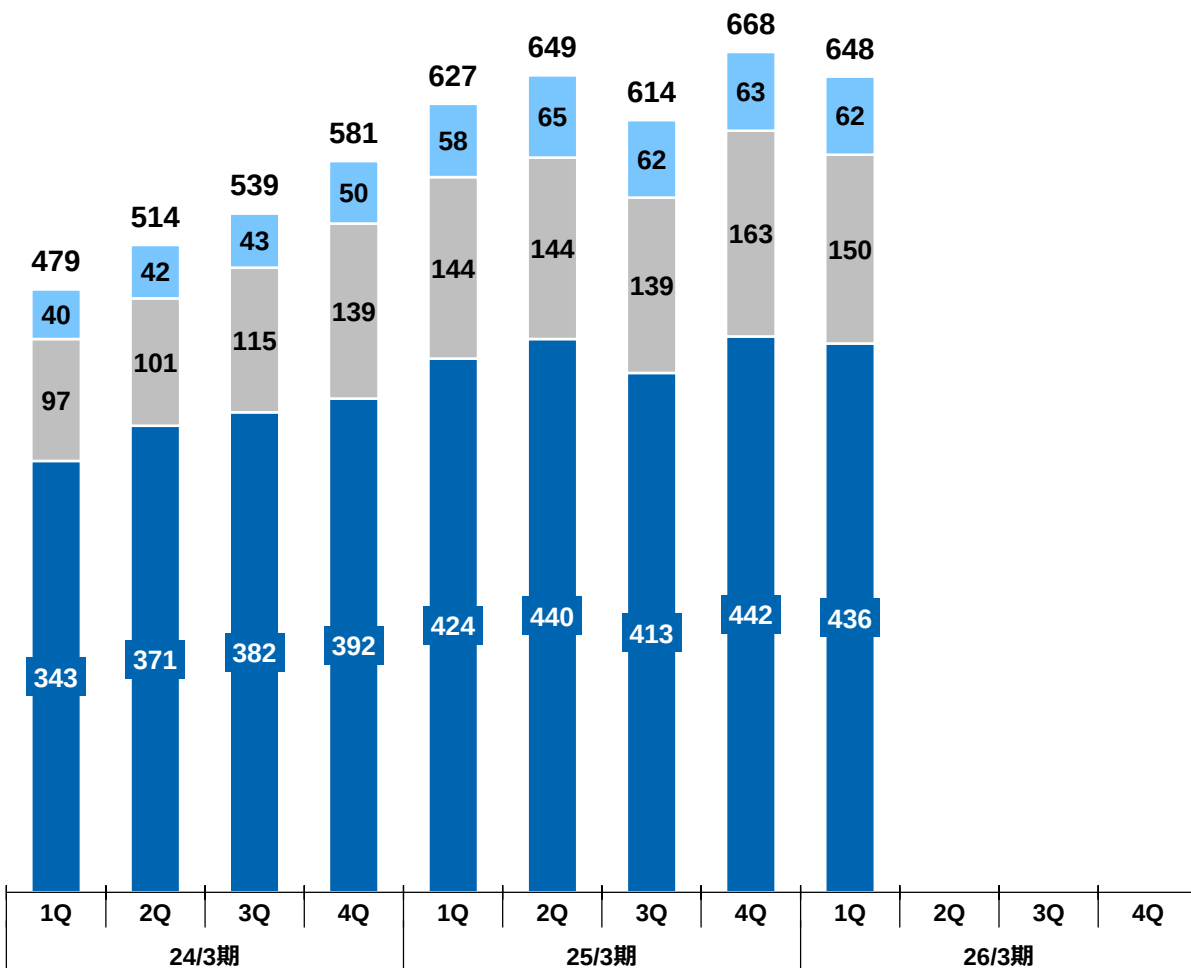
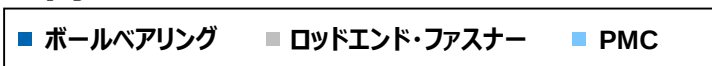


営業利益

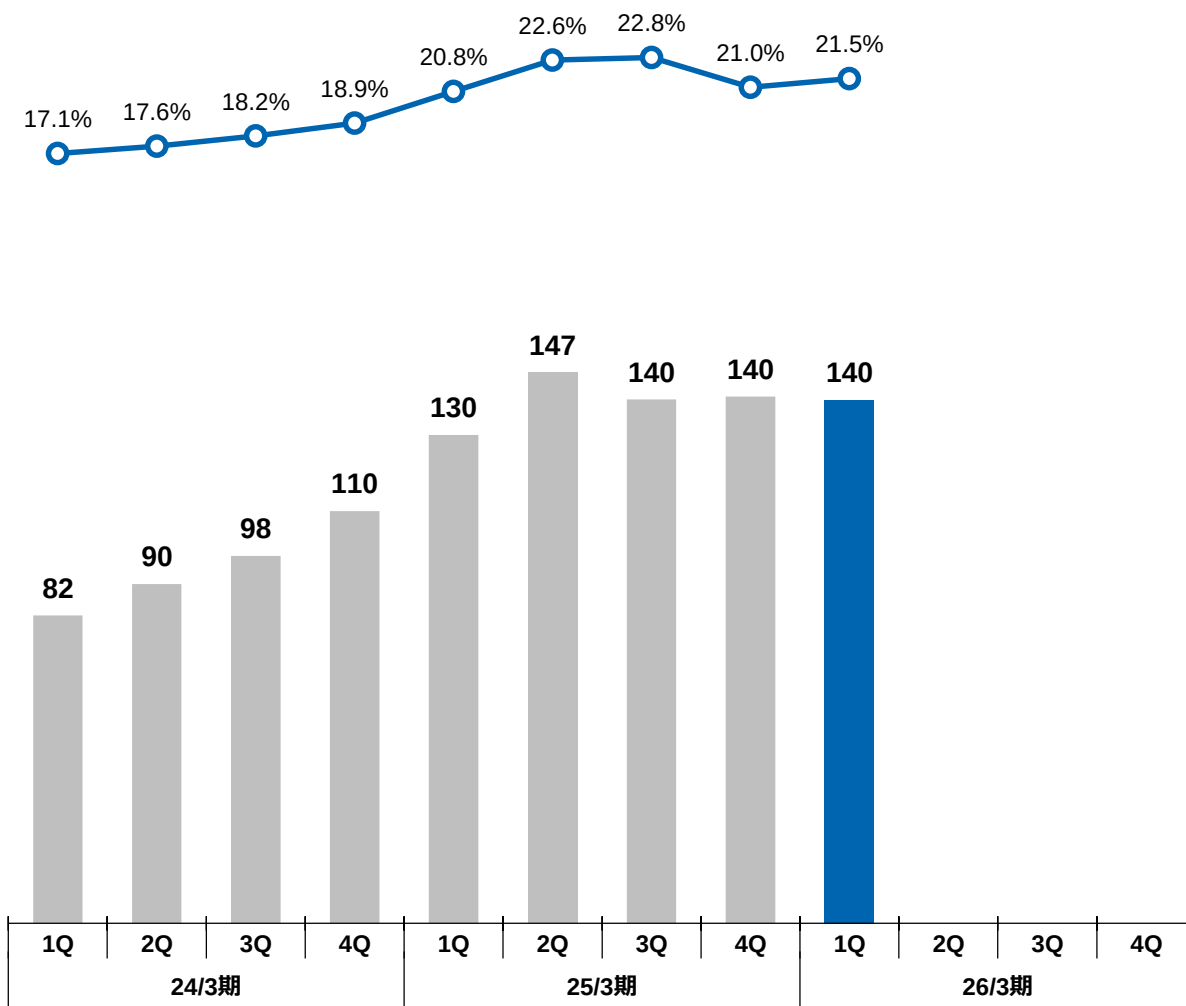


プレジジョンテクノロジーズ セグメント (PT)

売上高 (億円)



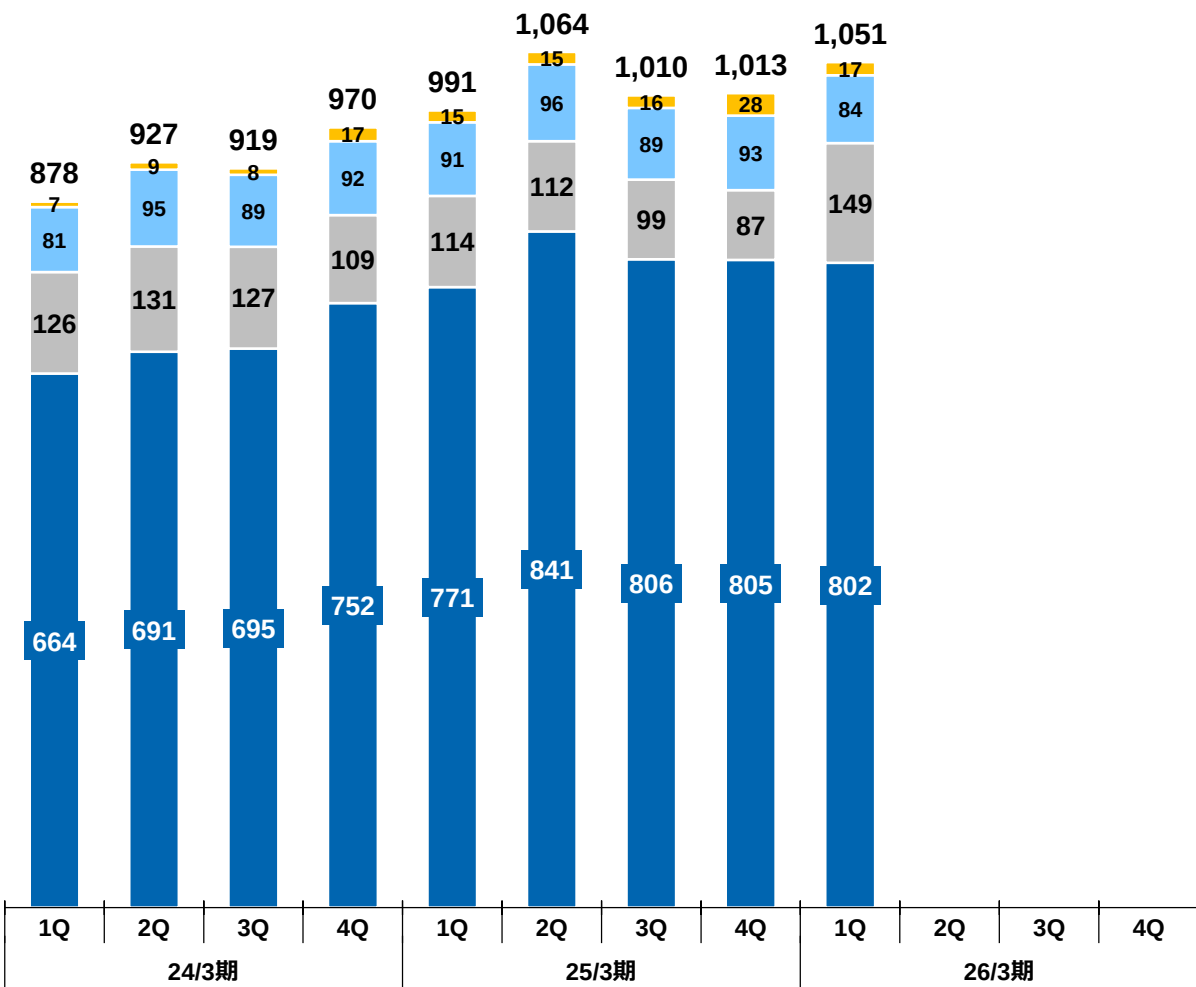
営業利益 (億円)



モーター・ライティング&センシング セグメント (MLS)

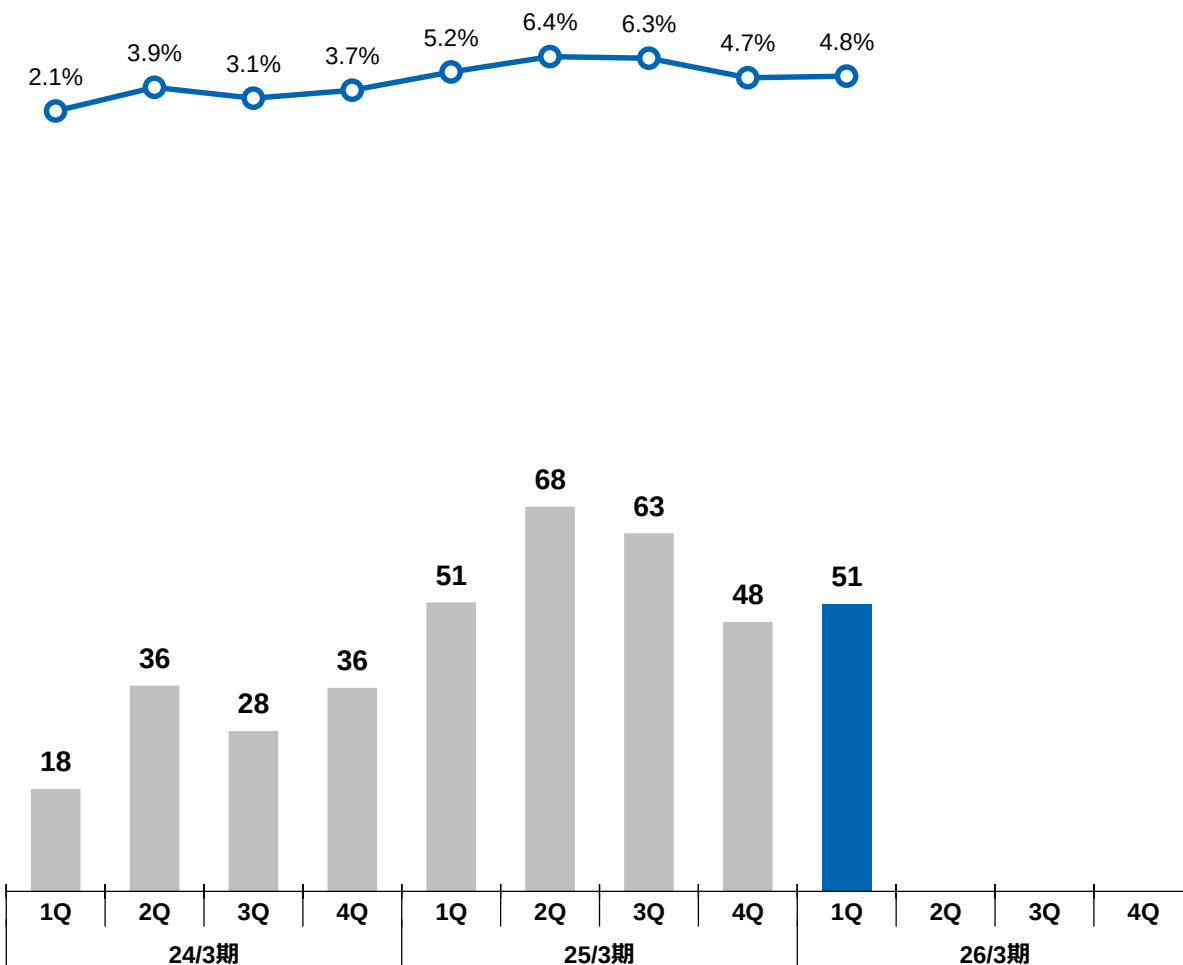
売上高 (億円)

■ モーター ■ エレクトロデバイス ■ センシングデバイス ■ その他



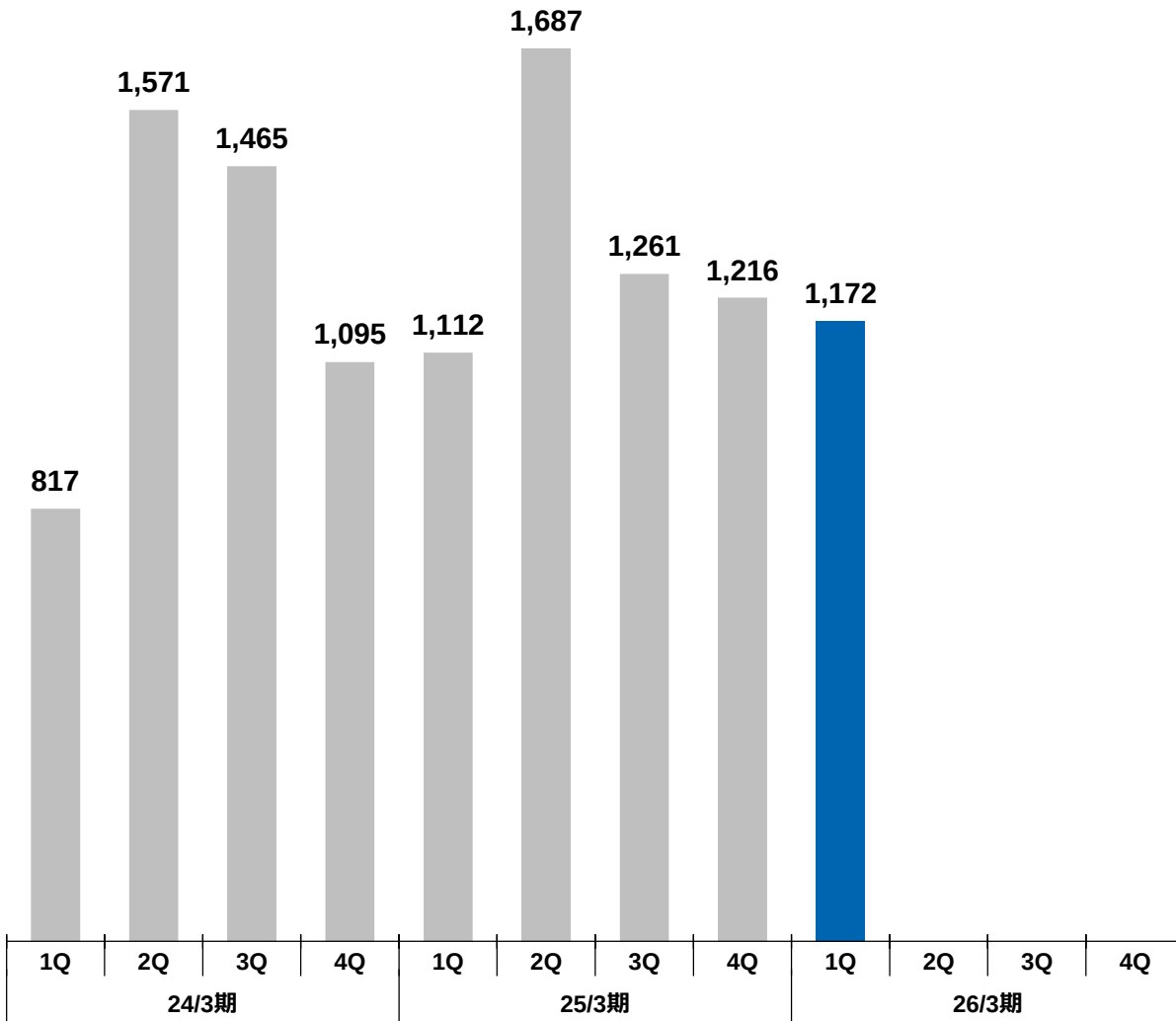
営業利益 (億円)

■ 営業利益 ● 営業利益率

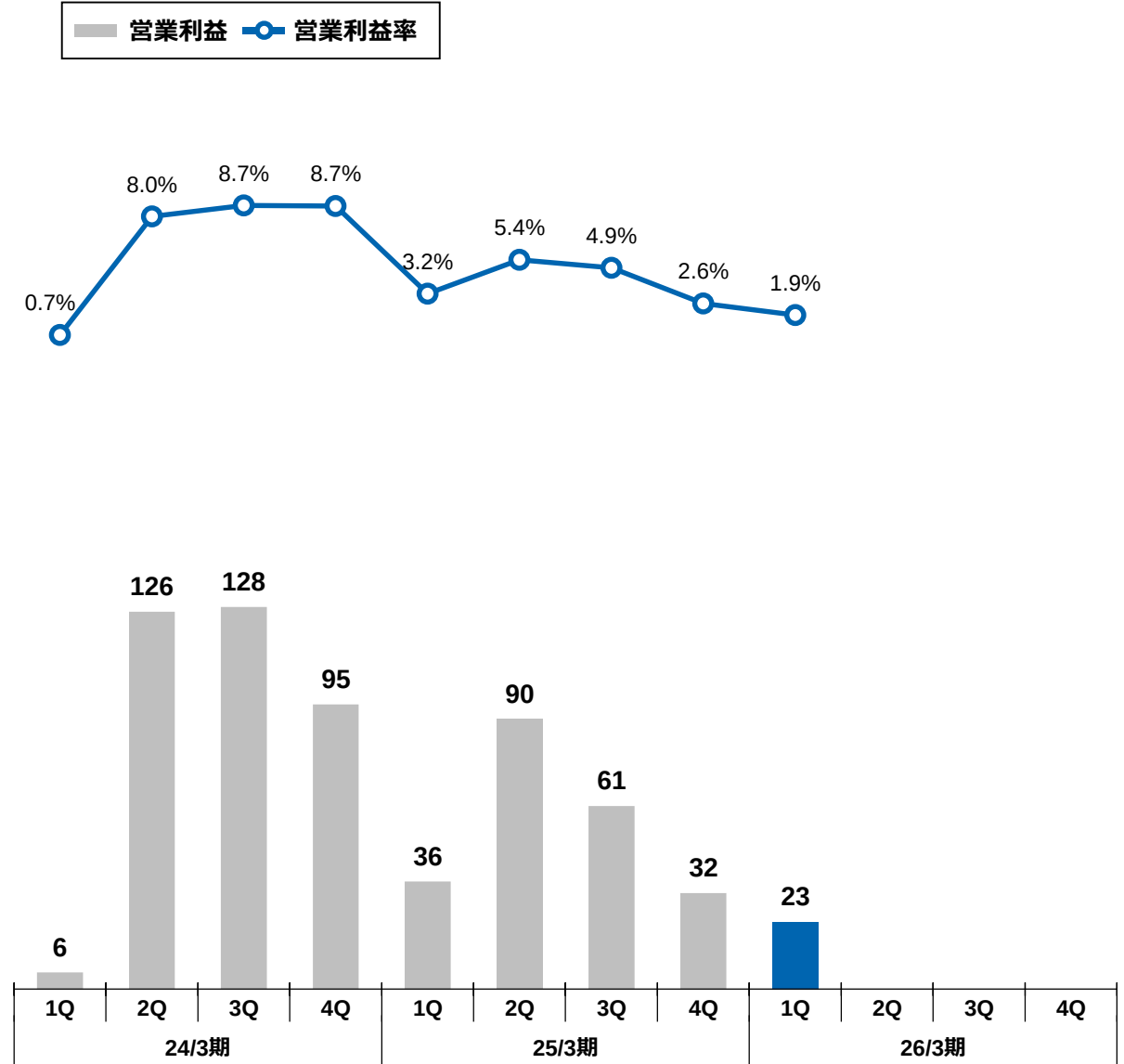


セミコンダクタ&エレクトロニクス セグメント (SE)

売上高 (億円)

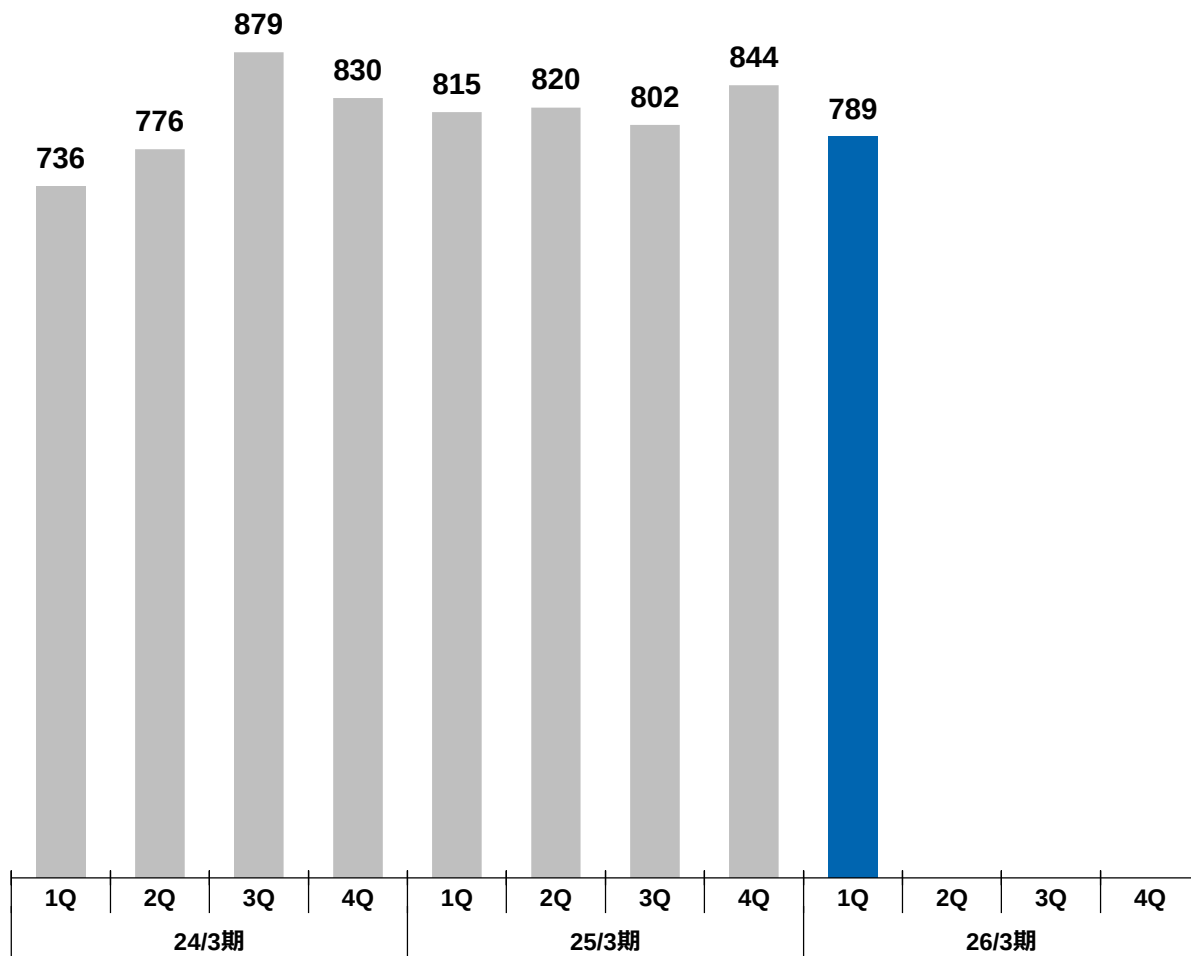


営業利益 (億円)

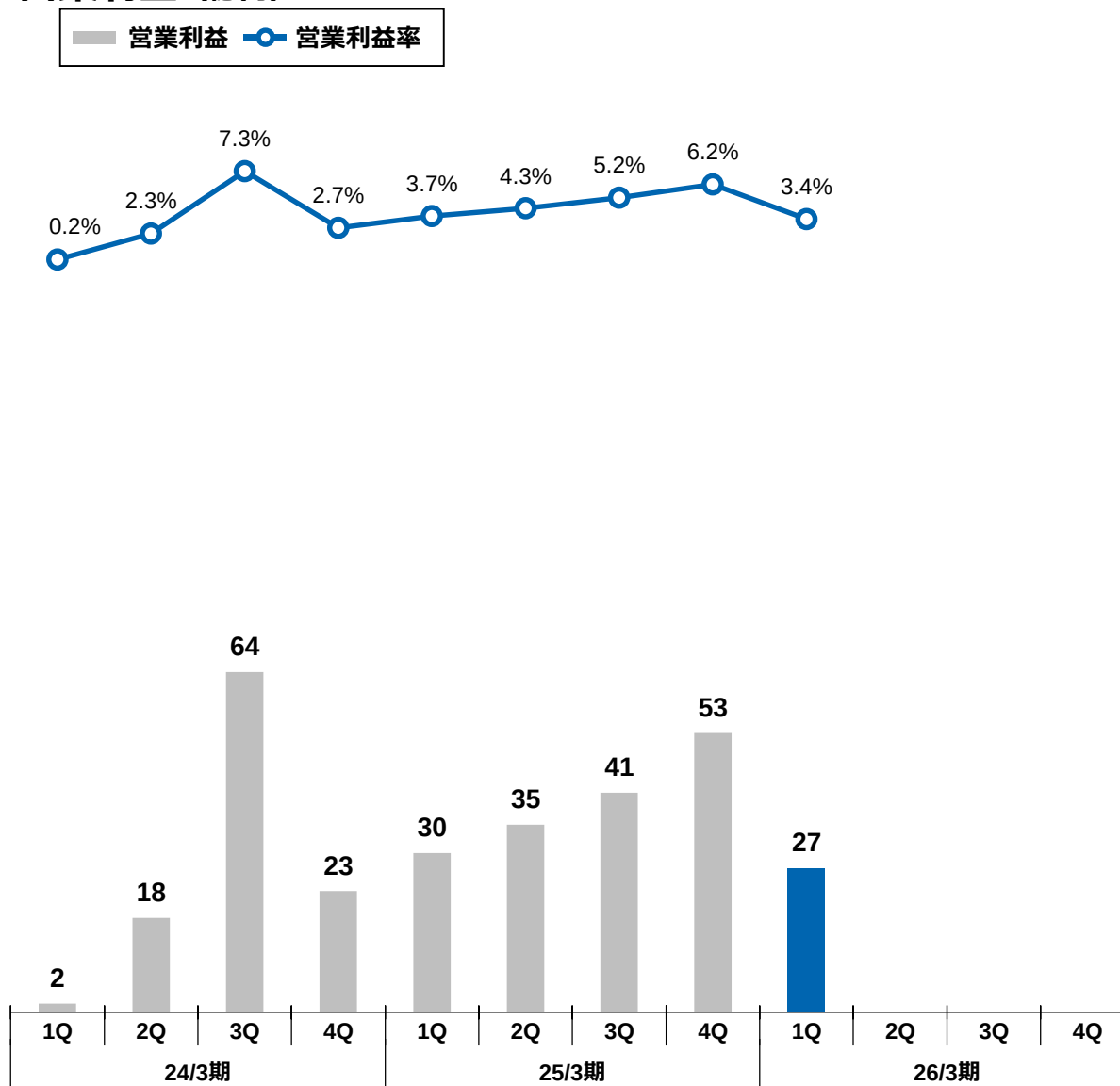


アクセスソリューションズ セグメント (AS)

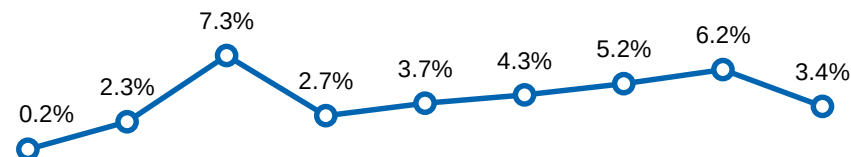
売上高 (億円)



営業利益 (億円)

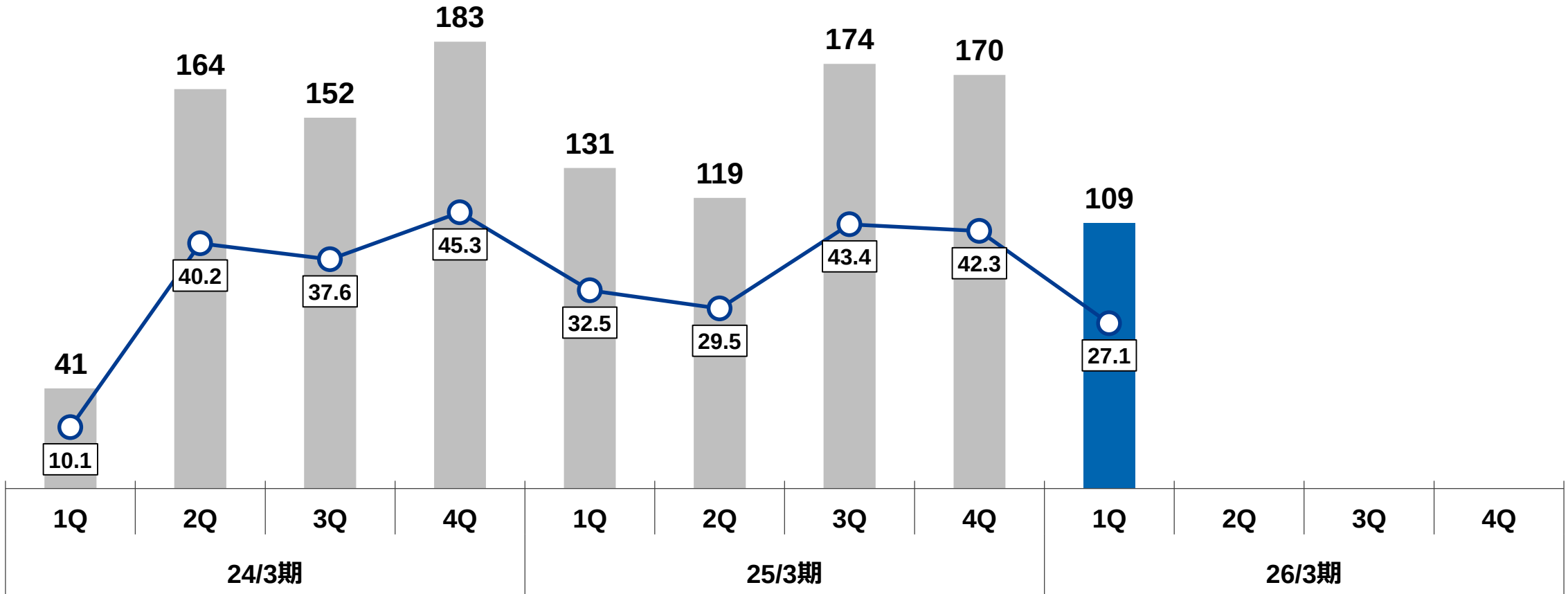


営業利益率



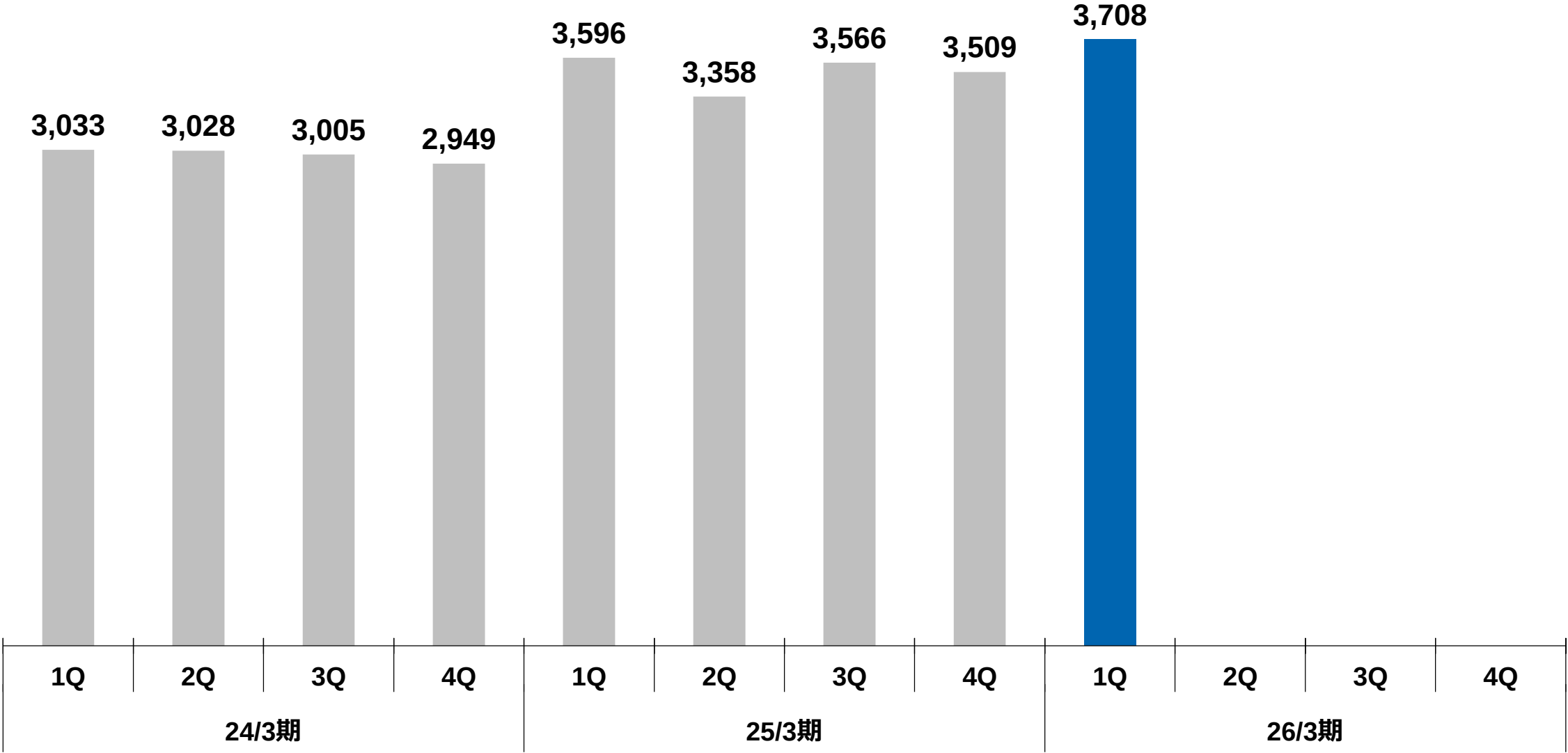
親会社の所有者に帰属する四半期利益 / EPS

(億円) ■ 親会社の所有者に帰属する四半期利益 ● 基本的1株当たり四半期利益 (円)



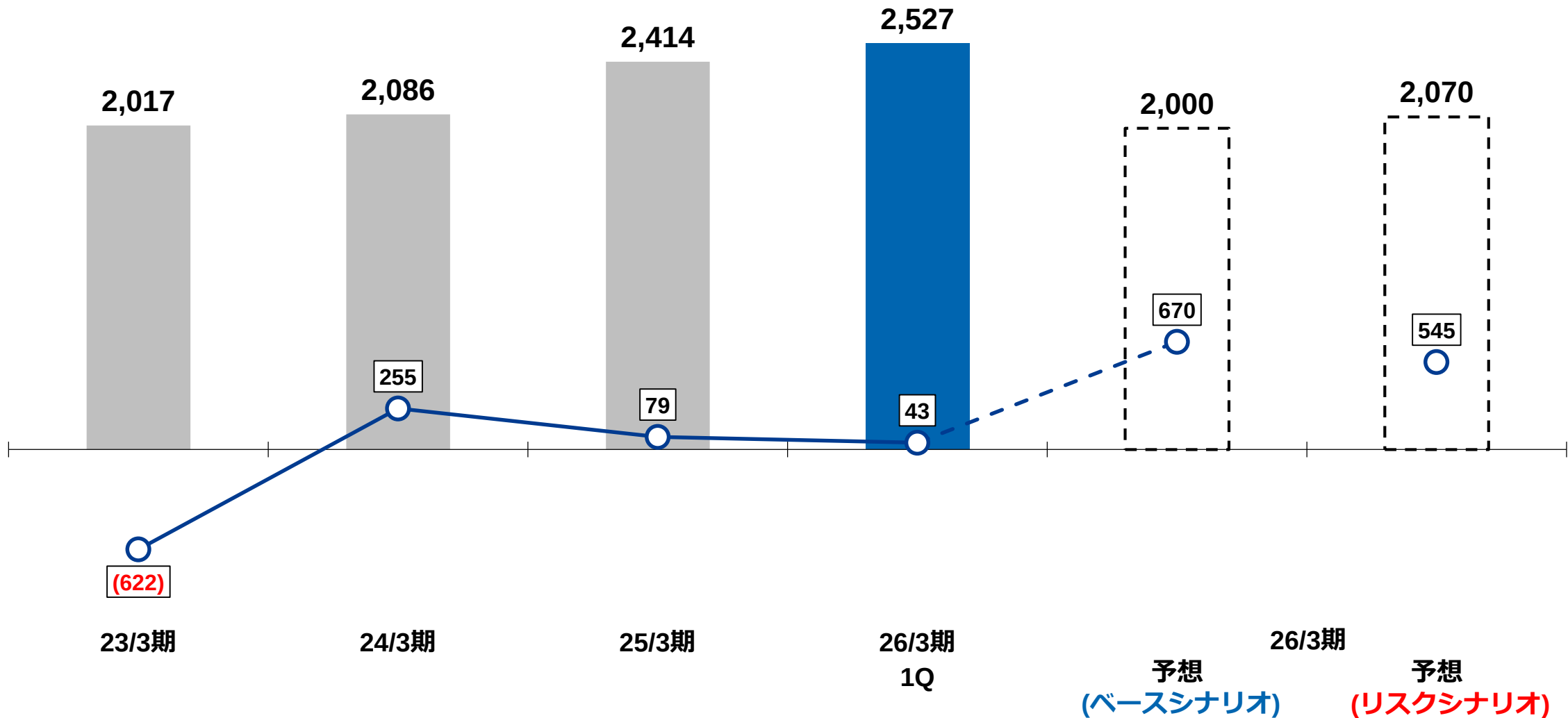
棚卸資産

(億円)



ネット有利子負債、フリーキャッシュフロー

(億円) ■ ネット有利子負債* ● フリーキャッシュフロー



*ネット有利子負債：連結財政状態計算書上の「社債および借入金」 - (「現金および現金同等物」+ 3か月超の定期預金)

通期業績予想はリスクシナリオを修正

(億円)	2025年3月期	2026年3月期 (ベースシナリオ)				2026年3月期 (リスクシナリオ)			
	通期	上半期	下半期	通期	前期比	上半期	下半期	通期	前期比
売上高	15,227	7,745	7,455	15,200	-0.2%	7,745	7,255	15,000	-1.5%
営業利益	※ 945	425	575	1,000	+5.8%	430	470	900	-4.7%
税引前利益	826	405	555	960	+16.2%	410	450	860	+4.1%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	595	300	410	710	+19.4%	300	335	635	+6.8%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	147.58	74.70	102.10	176.80	+19.8%	74.70	83.42	158.12	+7.1%

為替レート	2025年3月期 通期	2026年3月期 2Q-4Q想定
US\$	152.61円	140.00円
ユーロ	163.89円	160.00円
タイバーツ	4.36円	4.20円
人民元	21.12円	19.40円

※50億円程度の一時費用が含まれています

セグメント別業績予想（ベースシナリオ）

(億円)	2025年3月期 通期	2026年3月期			
		上半期	下半期	通期	前期比 ※
売上高	15,227	7,745	7,455	15,200	-0.2%
プレジジョンテクノロジーズ	2,557	1,275	1,285	2,560	+0.1%
モーター・ライティング&センシング	4,077	2,070	2,200	4,270	+4.7%
セミコンダクタ&エレクトロニクス	5,276	2,840	2,320	5,160	-2.2%
アクセスソリューションズ	3,281	1,535	1,625	3,160	-3.7%
その他	35	25	25	50	+41.6%
営業利益	945	425	575	1,000	+5.8%
プレジジョンテクノロジーズ	557	275	295	570	+2.3%
モーター・ライティング&センシング	230	120	180	300	+30.5%
セミコンダクタ&エレクトロニクス	220	90	100	190	-13.6%
アクセスソリューションズ	159	65	125	190	+19.3%
その他	△12	△10	△10	△20	-
調整額	△209	△115	△115	△230	-

※2025年3月期通期実績については、セグメント変更による組み換えは考慮していません

セグメント別業績予想（リスクシナリオ）

(億円)	2025年3月期 通期	2026年3月期			
		上半期	下半期	通期	前期比 ※
売上高	15,227	7,745	7,255	15,000	-1.5%
プレシジョンテクノロジーズ	2,557	1,275	1,245	2,520	-1.4%
モーター・ライティング&センシング	4,077	2,065	2,125	4,190	+2.8%
セミコンダクタ&エレクトロニクス	5,276	2,845	2,290	5,135	-2.7%
アクセスソリューションズ	3,281	1,535	1,570	3,105	-5.4%
その他	35	25	25	50	+41.6%
営業利益	945	430	470	900	-4.7%
プレシジョンテクノロジーズ	557	275	270	545	-2.1%
モーター・ライティング&センシング	230	120	140	260	+13.1%
セミコンダクタ&エレクトロニクス	220	95	90	185	-15.9%
アクセスソリューションズ	159	65	95	160	+0.5%
その他	△12	△10	△10	△20	-
調整額	△209	△115	△115	△230	-

※2025年3月期通期実績については、セグメント変更による組み換えは考慮していません

1Qは売上高・営業利益ともに想定以上。米相互関税の影響を再予想

全体

- 1Qは為替影響あるも、売上高は1Q過去最高。営業利益も全セグメント想定上振れ着地。2Qも好調継続を見込むが、為替動向、米相互関税など外部環境動向を注視
- コア事業の力強い成長・収益改善は進む。サブコア事業（光デバイス、機構部品）は生産トラブルは解決に向かうも、1Qはレアアース問題・為替影響により低調
- データセンター向けは好調。自動車向けは各事業堅調を維持し関税影響は限定的
- タイ・カンボジアの係争地問題による影響は軽微。両国拠点は通常稼働
- ツバキ・ナカシマの新設分割会社の株式取得、本多通信工業による英国子会社株式の売却を実施

プレジジョン テクノロジーズ(PT)

- 四半期外販数量は過去最高を更新。データセンター向けファン用ベアリングが牽引
- 航空機向けは好調継続。航空機メーカーのバックログは潤沢であり関税影響も軽微

モーター・ ライティング&センシング (MLS)

- ニッチトップ分野のモーターが成長。HDDモーター、車載モーターも堅調
- スマート製品はデータセンター向けバッテリー保護モジュールが好調
- バックライトは車載向け新製品が立ち上がり来期大幅増産に向かう

セミコンダクタ& エレクトロニクス(SE)

- 半導体はアナログ、パワーともにニッチトップ戦略により堅調を維持
- サブコアは1Q低調。光デバイスは1Qは6月下旬から一部生産開始に留まる。機構部品は生産面の問題が解決し黒字化するも為替が逆風に

アクセス ソリューションズ(AS)

- 地域により凸凹はあるが、過去最高益に向け1Qは堅調なスタート。さらなる生産性改善により収益力向上に取り組む

米相互関税15%の前提において、1Qは直接・間接ともに業績影響は軽微

米国向け売上高概況：約3,400億円

(2026年3月期予測、請求先ベース)

この部分が米相互関税
の直接対象

うち、米国向け製品輸出

約400億円

ボールベアリング、
モーター、等

米国製の国内販売

約1,600億円

左記の他、ロッドエンドベアリング、
アクセス製品、等

米国外から米国客先への販売

約1,800億円

光デバイス、等

直接影響

- ✓ **基本方針**：輸入関税は販売価格へ転嫁
- ✓ **財務影響**：US\$ 1.3 million
* 製品・材料輸入に伴う追加関税支払総額 約 US\$6.1 million
のうち、約80% (US\$ 4.8 million) は価格転嫁に関してお客様と
合意済み
- ✓ **生産移転**：現時点で、生産移転の計画は無し

間接影響

- ✓ **市況変化**：現時点で大幅な市況悪化は見られない
- ✓ **前倒し需要**：目立った動きは見られない
- ✓ **2Q以降**：不透明な状況は継続

米相互関税による業績影響は想定より減少、通期業績予想はリスクシナリオを修正

(億円)

セグメント		1Q実績	2026年3月期（ベースシナリオ）				2026年3月期（リスクシナリオ）			
			2Q予想	上半期予想	下半期予想	通期計画	2Q予想	上半期予想	下半期予想	通期計画
PT (プレジジョンテクノロジーズ)	売上高	648	627	1,275	1,285	2,560	627	1,275	1,245	2,520
	営業利益	140	135	275	295	570	135	275	270	545
	営業利益率	21.5%	21.6%	21.6%	23.0%	22.3%	21.6%	21.6%	21.7%	21.6%
MLS (モーター・ライティング&センシング)	売上高	1,051	1,019	2,070	2,200	4,270	1,014	2,065	2,125	4,190
	営業利益	51	69	120	180	300	69	120	140	260
	営業利益率	4.8%	6.8%	5.8%	8.2%	7.0%	6.8%	5.8%	6.6%	6.2%
SE (セミコンダクタ&エレクトロニクス)	売上高	1,172	1,668	2,840	2,320	5,160	1,673	2,845	2,290	5,135
	営業利益	23	68	90	100	190	73	95	90	185
	営業利益率	1.9%	4.0%	3.2%	4.3%	3.7%	4.3%	3.3%	3.9%	3.6%
AS (アクセスソリューションズ)	売上高	789	746	1,535	1,625	3,160	746	1,535	1,570	3,105
	営業利益	27	38	65	125	190	38	65	95	160
	営業利益率	3.4%	5.1%	4.2%	7.7%	6.0%	5.1%	4.2%	6.1%	5.2%
その他／調整額	売上高	9	16	25	25	50	16	25	25	50
	営業利益	△66	△59	△125	△125	△250	△59	△125	△125	△250
合計	売上高	3,669	4,076	7,745	7,455	15,200	4,076	7,745	7,255	15,000
	営業利益	174	251	425	575	1,000	256	430	470	900
	営業利益率	4.8%	6.2%	5.5%	7.7%	6.6%	6.3%	5.6%	6.5%	6.0%

- 米相互関税による財務影響は軽微で1Qは計画を上振れるも、マクロ経済への間接影響を慎重に見極めるため上半期予想については保守的に据え置き。

ベアリングは四半期外販数量過去最高を更新 下期生産数量過去最高に向け手応えあり

主なポイント

1 ベアリング

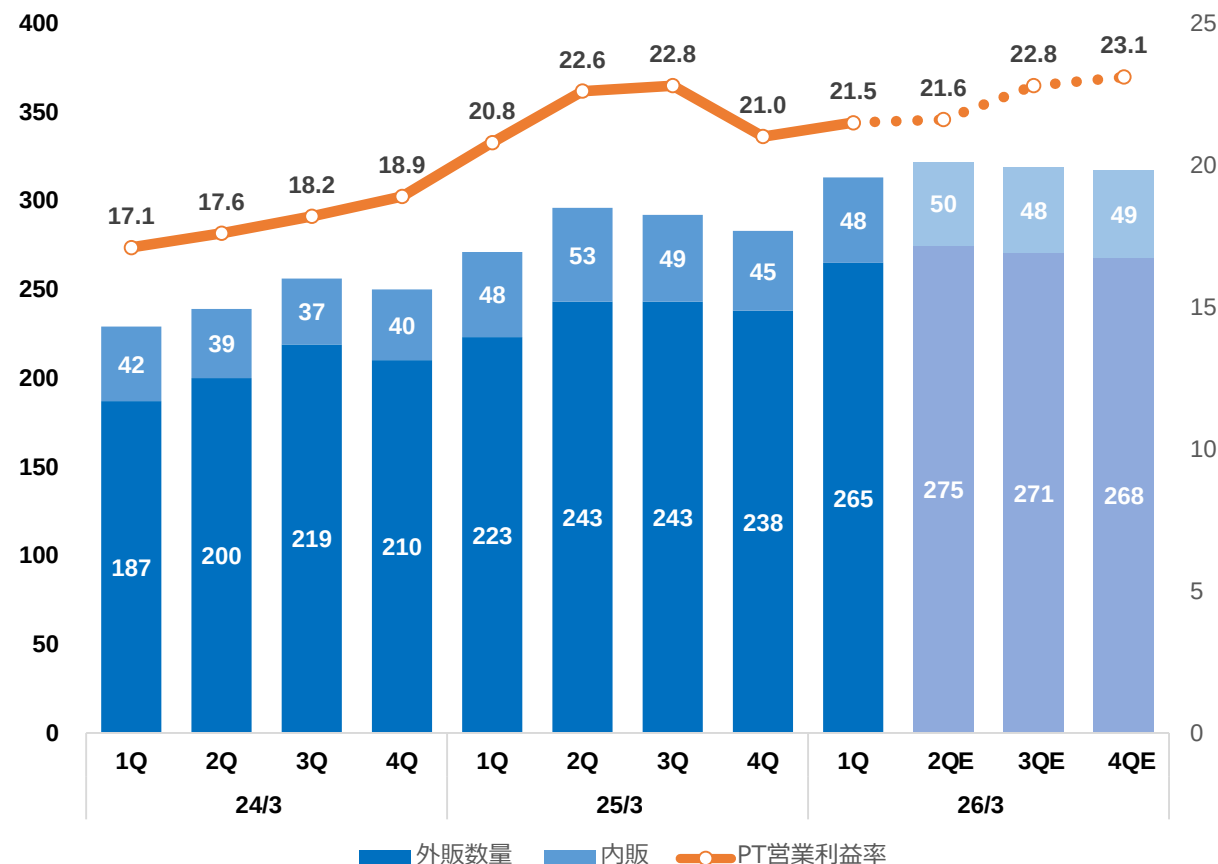
- 四半期外販数量は過去最高を更新
- 下期に生産数量過去最高更新 (3.4億個/月) を見込み、力強い手応えあり
- 中国向けを中心としたデータセンター向けが牽引。ピボットも好調
- 自動車向けも堅調に推移

2 ロッドエンド・ファスナー

- 航空機メーカーは潤沢なバックログ (受注残) があり、当社製品のビジネスも着実に増加。米相互関税の影響は軽微
- 当社は欧米に加え、タイ、インドなどベストコストカントリーで生産可能。お客様からの期待も高くエンジン向け部品等の引き合いも多い
- 労働力不足により、足下で若干の生産調整はあるものの、中長期的には成長が続く

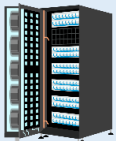
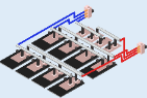
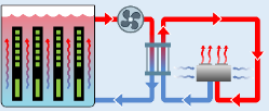
ボールベアリング 外販・内販数量 (月次平均・百万個)

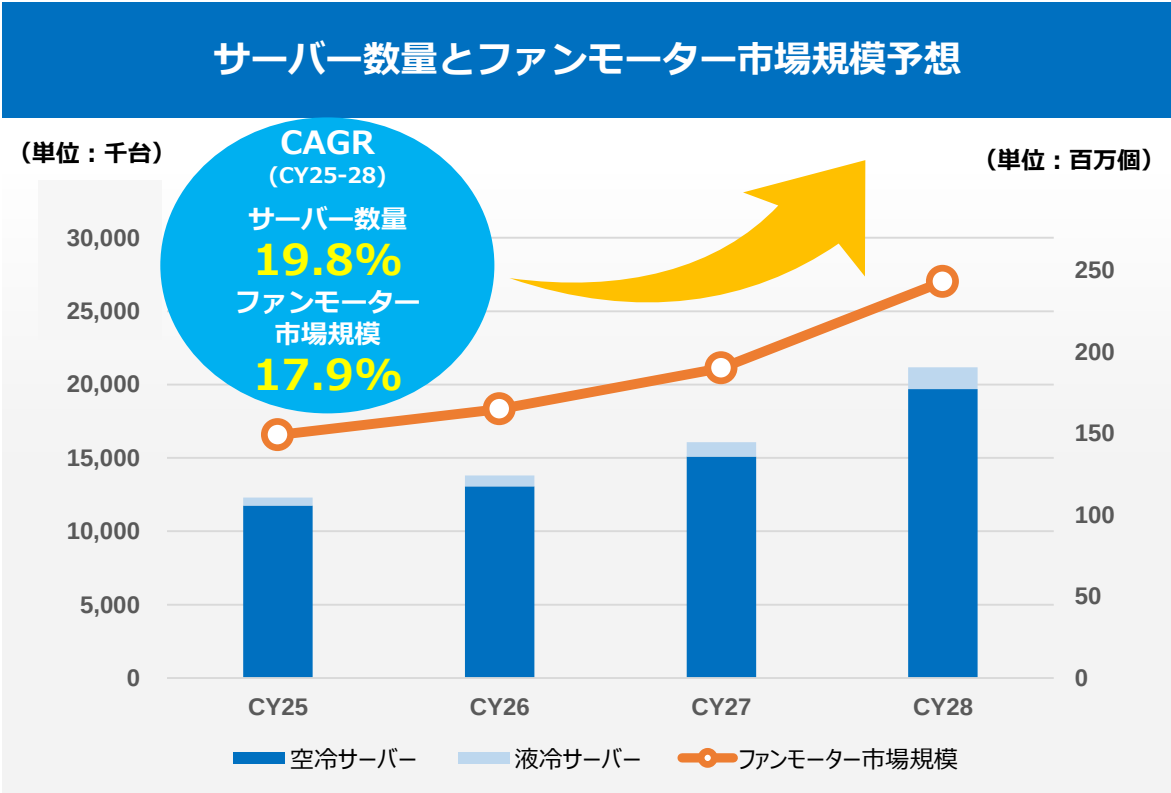
PT営業利益率の推移(%)



データセンター サーバー機器の冷却方式は、導入・運用のコスト・利便性により
今後もベアリングを使用する空冷（ファンモーター）が主力と予測

- データ量の拡大は続き、AIサーバーだけでなく、データストレージおよびAI付随サービス用途（動画・画像生成や配信）などで一般サーバーも引き続き増加
- AIサーバー/一般サーバーの冷却方式は、引き続きベアリングを使用する空冷方式が主流
 - ➡液冷方式はGPU/CPUの冷却が液冷（コールドプレート）、その他（電源・メモリー・ストレージ部他）は空冷のハイブリッド方式が主流。導入・運用コスト面から完全液冷方式サーバーの普及は限定的

冷却方式		ファンモーター使用	ファンモーター員数
空冷		○	18~22台/サーバー
	①リアドア方式 	○ +大型ファン	12~15台/サーバー + [大型ファン] 5~24台/ 排熱機器 (LtoL除く)
液冷	②コールドプレート ・ Liquid to Air(LtoA) ・ Liquid to Liquid(LtoL) 	○ +大型ファン (LtoL除く)	
	③液浸方式 	△ (攪拌用)	—



車載向けモーターはグローバルニッチトップとハイマージンを確保し、さらなる収益性向上を追求

主なポイント

1 モーター

- ・車載向けモーターをはじめ、ニッチ市場にフォーカスし、ハイマージンビジネスの獲得を推進中
- ・27年3月期の営業利益率10%達成に向けて、今後も収益性改善に注力

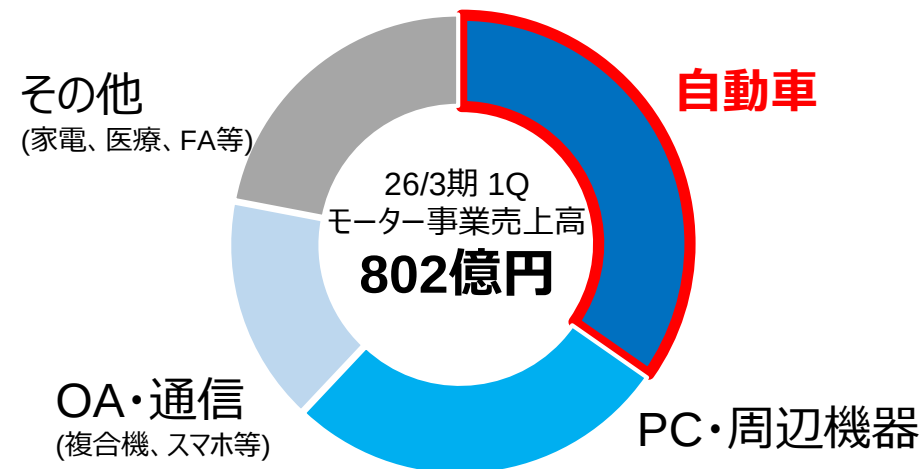
2 バックライト

- ・車載向けLEDバックライトの新製品を横展開
当社の新たな成長ドライバーへ
- ・2025年7月から量産を開始し、2026年より本格的な収益貢献を見込む

3 スマート製品（今期よりMLSセグメントに移管）

- ・AIサーバーの拡大により、バッテリー保護モジュールの事業機会が拡大

26/3期1Q モーター事業 用途別売上高



車載向けグローバルニッチトップ製品



ステッピングモーター アクチュエーター ブラシレスDCモーター アクチュエーター ブラシレスモーター アクチュエーター

世界市場
シェア

60%

(当社調べ)

アナログ半導体・パワー半導体ともにニッチな領域に注力し好調な業績 1Qは営業利益率約20%を達成

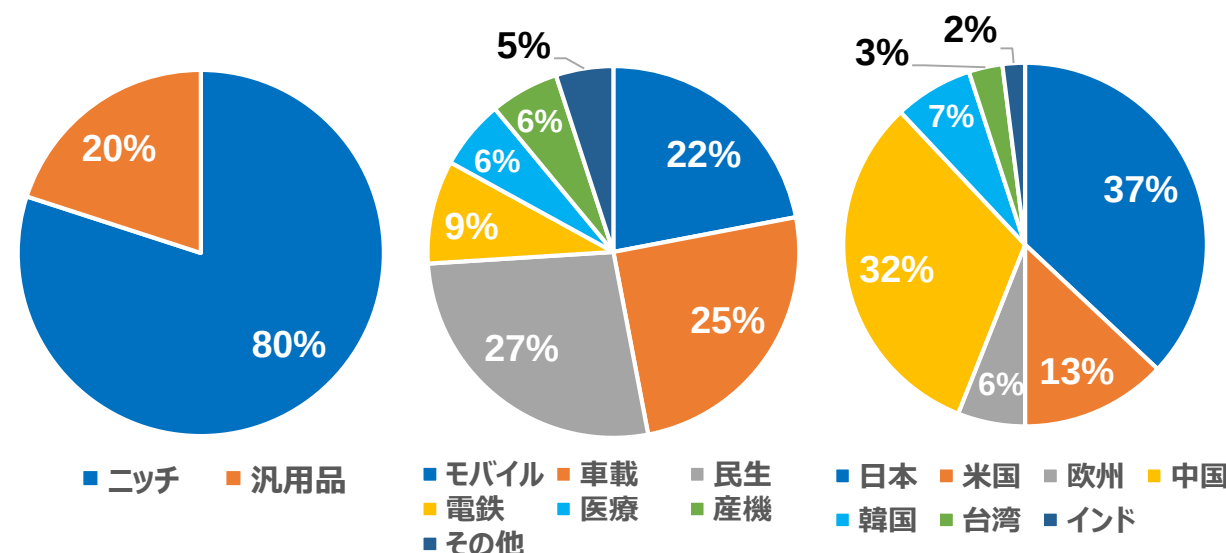
主なポイント

1

アナログ半導体

- ・ニッチトップのリチウムイオン電池保護ICの需要が旺盛で、好調な業績を維持
- ・医療用超音波診断装置用ICは、旧ソシオネクストの受信技術を取り入れ、送受信統合ソリューションを実現。大手医療機器メーカーから新規共同開発引き合い多数
- ・滋賀工場での政府補助金を活用した設備の導入が全て完了、稼働率を順次アップ中。MEMSマイク、非接触温度センサーの本格量産開始

半導体事業 オーバービュー



2

パワー半導体

- ・昨年5月に統合したミネベアパワーデバイスのPMIは、価格是正活動も含め順調に進捗
- ・参入障壁の高い高耐圧・高耐久の市場に特化し、市況が厳しい中でも利益を確保



サブコア事業は回復に向かうも1Qはレアアース問題、米相互関税、為替など外部環境の影響を受ける ただし、事業全体に占めるサブコア比率は限定的

主なポイント

1 光デバイス

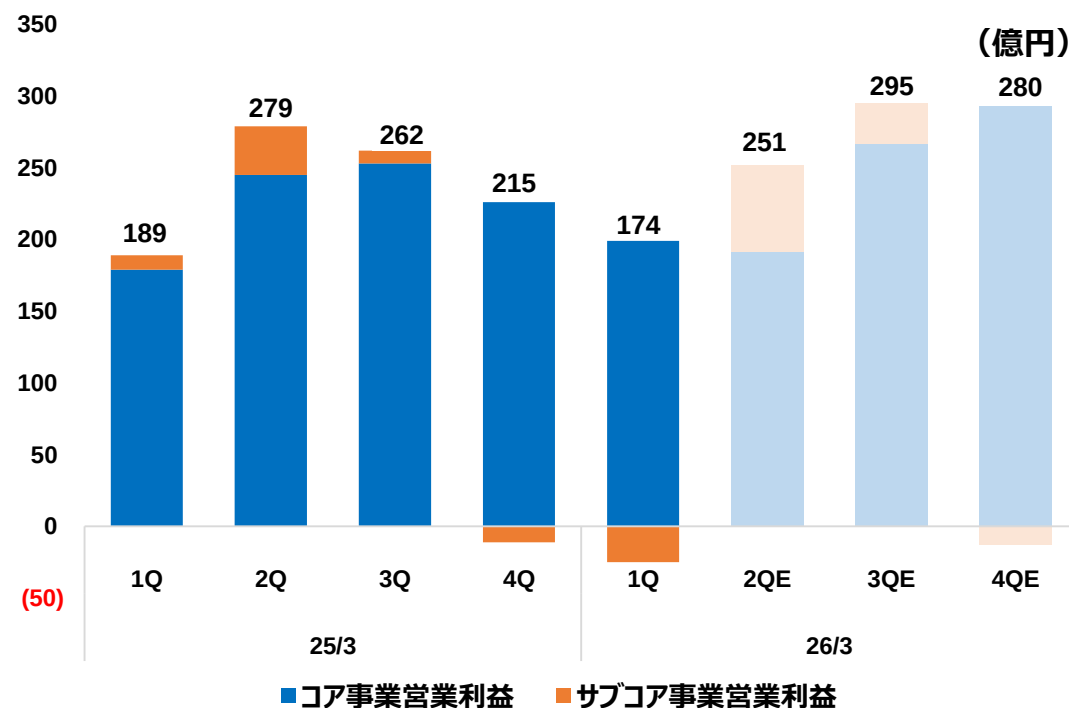
- OIS向けのレアアースは、現在、一定程度の入手が可能になり、6月下旬から生産を一部再開するが、1Qは稼働停止の影響を受け赤字
- 生産における基本動作の見直しは完了しつつある
今後のお客様需要を注視

2 機構部品

- 新モデルの立ち上げは順調。足元では増産要求あり
- しかし急激な円高による為替影響を受け、損益はほぼブレイクイーブン。2Qは為替は回復か？

コア事業とサブコア事業の営業利益の推移

- サブコア事業が現在事業全体に占める割合は限定的
- コア事業は力強い成長が続く
- サブコアは技術革新・マクロ経済・地政学リスク等によりボラティリティがあることは当初より想定。今後の収益性を見極め



米国相互関税15%となるも、徹底的な生産性向上施策により収益性改善を目指す

主なポイント

1 収益性の改善

- 1Q売上は計画達成。米国相互関税15%となるも、通期でも計画達成を目指す
- 全社横断的な構造改革、価格是正および徹底的な生産性向上で収益性改善を目指す

2 インド市場

- 急成長するインド市場の需要に対応
- 二輪・四輪車向け事業拡大のためインドに新工場を設立

3 製品戦略

- ミネベア アクセスソリューションズ（MAS、旧ホンダロック）製品において、日系OEMに加え欧米・中国等グローバルOEMへの拡販が進展
- ハイマージン製品のラインアップ拡充のための相合製品の開発強化

インド新工場の新設について

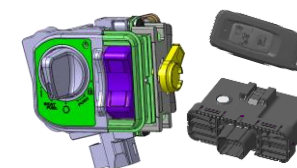
- 急速に需要が高まるインドの二輪・四輪車向けビジネス拡大に向けて製品の供給力を増強
- 新工場稼働により、ミネベア アクセスソリューションズのグローバル生産能力強化を図る

ミネベア アクセスソリューションズ インド工場

場所:
インド・カルナタカ州
投資額:
約10億円
稼働開始:
2026年(予定)
生産品目:
二輪車等向け部品等



製造製品の 一例



スマートロックセット



ホイールセンサー

ツバキ・ナカシマの新設分割会社の株式取得

2024年2月9日付のリリースにおいて、ツバキ・ナカシマからボールねじ及びボールウェイの製造及び販売事業を取得することを開示済み。

ボールねじの品質検査における一部の数値改ざんが発覚後、調査の結果を含む、品質不正の原因、再発防止策、同種事案発生の可能性、品質不正による対象事業への影響等を精査し、その結果をふまえて、ツバキ・ナカシマとの間で株式譲渡実行日について合意し、株式譲渡契約に関する覚書を**2025年7月31日付**で締結、株式譲渡実行日は**2025年10月3日**を予定。

本件が、当社の連結業績に与える影響は軽微と見込む。

本多通信工業による英国子会社株式の売却

本多通信工業が保有する英国HTK Europe Limitedの株式の全てをサンワテクノスに売却することを決定。

株式譲渡契約を**2025年7月28日付**で締結、株式譲渡実行日は**2025年10月3日**を予定。

本件が、当社の連結業績に与える影響は軽微。

配当

中間配当は、前年同期比で5円増配

26/3期 中間配当 未定  **25** 円/株

(ご参考) 25/3期 年間配当45円 (中間20円 期末25円)

配当方針

持続的・安定的な配当：

中期的なキャッシュアロケーションポリシーに基づき、安定した配当を実施

連結配当性向30%：

原則として連結配当性向30%程度をめどとしておりますが、経営環境を総合的に勘案し、決定してまいります

長期的な信頼関係：

投資家の皆様との長期的な信頼関係を築くことを目指します



当資料で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。

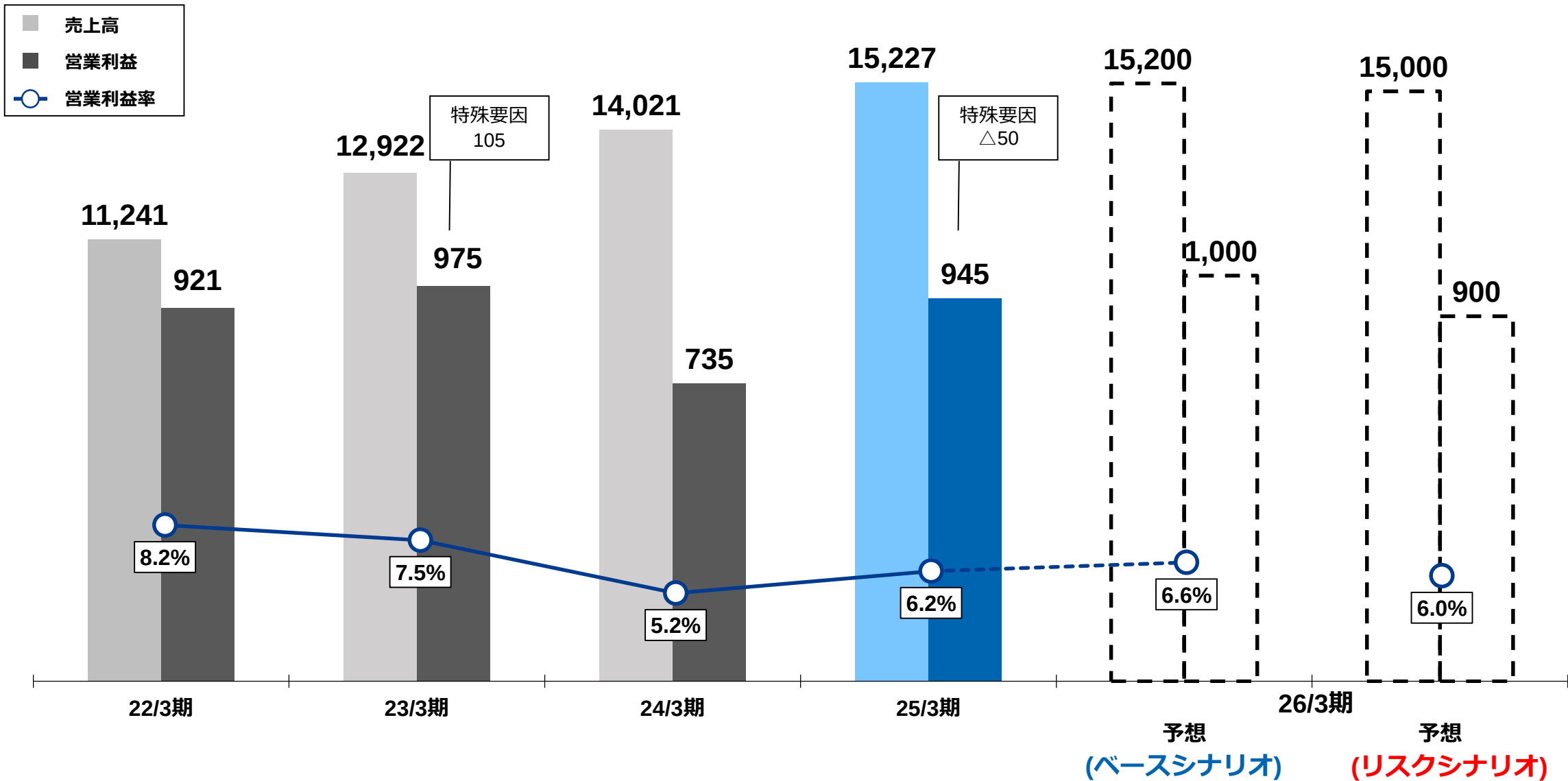
本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

2026年3月期 第1四半期から、業績概要をより分かりやすくお伝えするため、原則として数値を億円単位の表記に変更いたします。(従来は百万円単位等)
これに伴い、百万円単位の数値を四捨五入して表示しているため、本資料内の合計額や差額などが一致しない場合がございます。
詳細な数値につきましては、別途開示しております決算短信や財務補足資料等をご参照くださいますようお願いいたします。

參考資料

売上高、営業利益、営業利益率

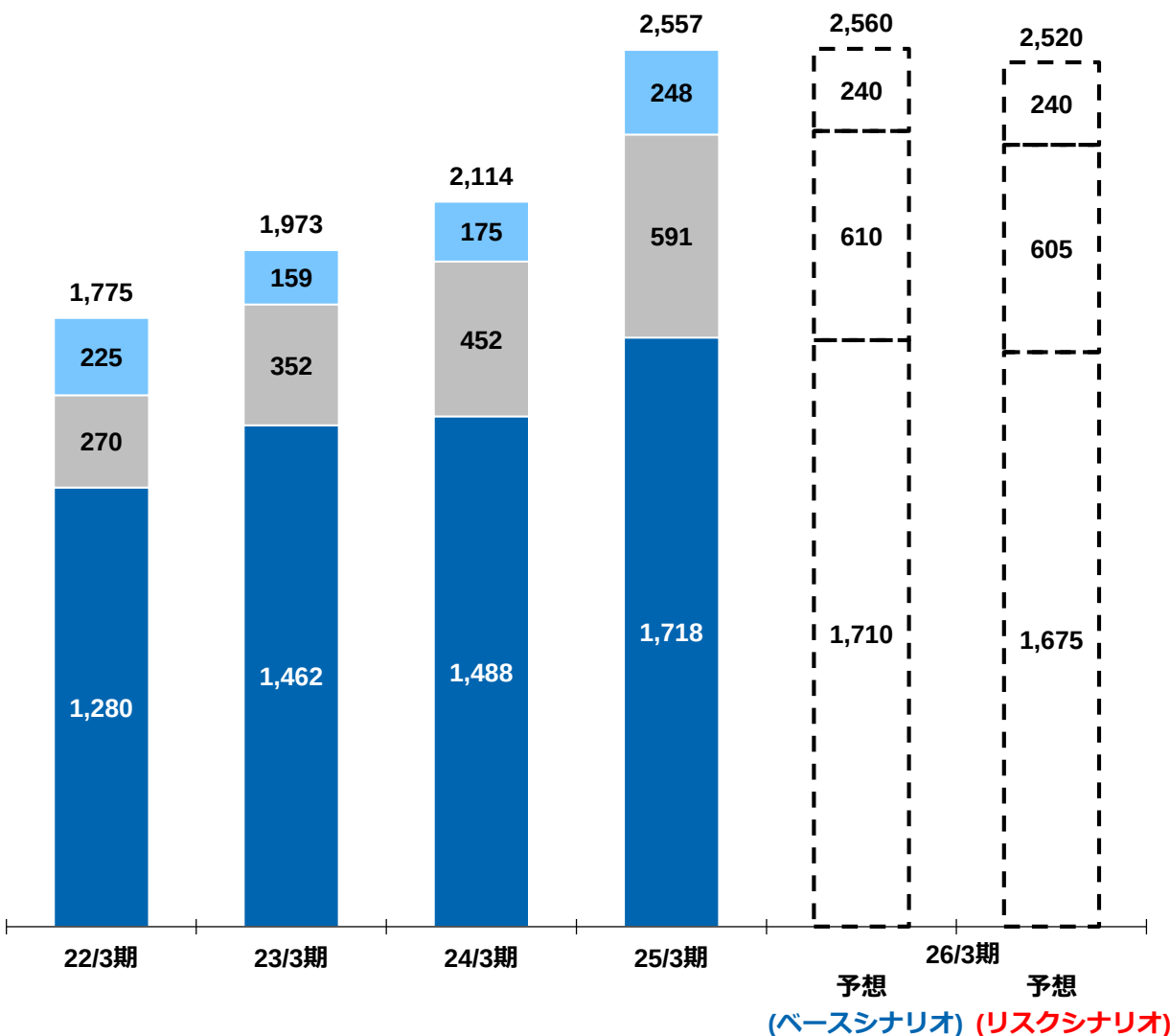
(億円)



プレジジョンテクノロジーズ セグメント (PT)

売上高 (億円)

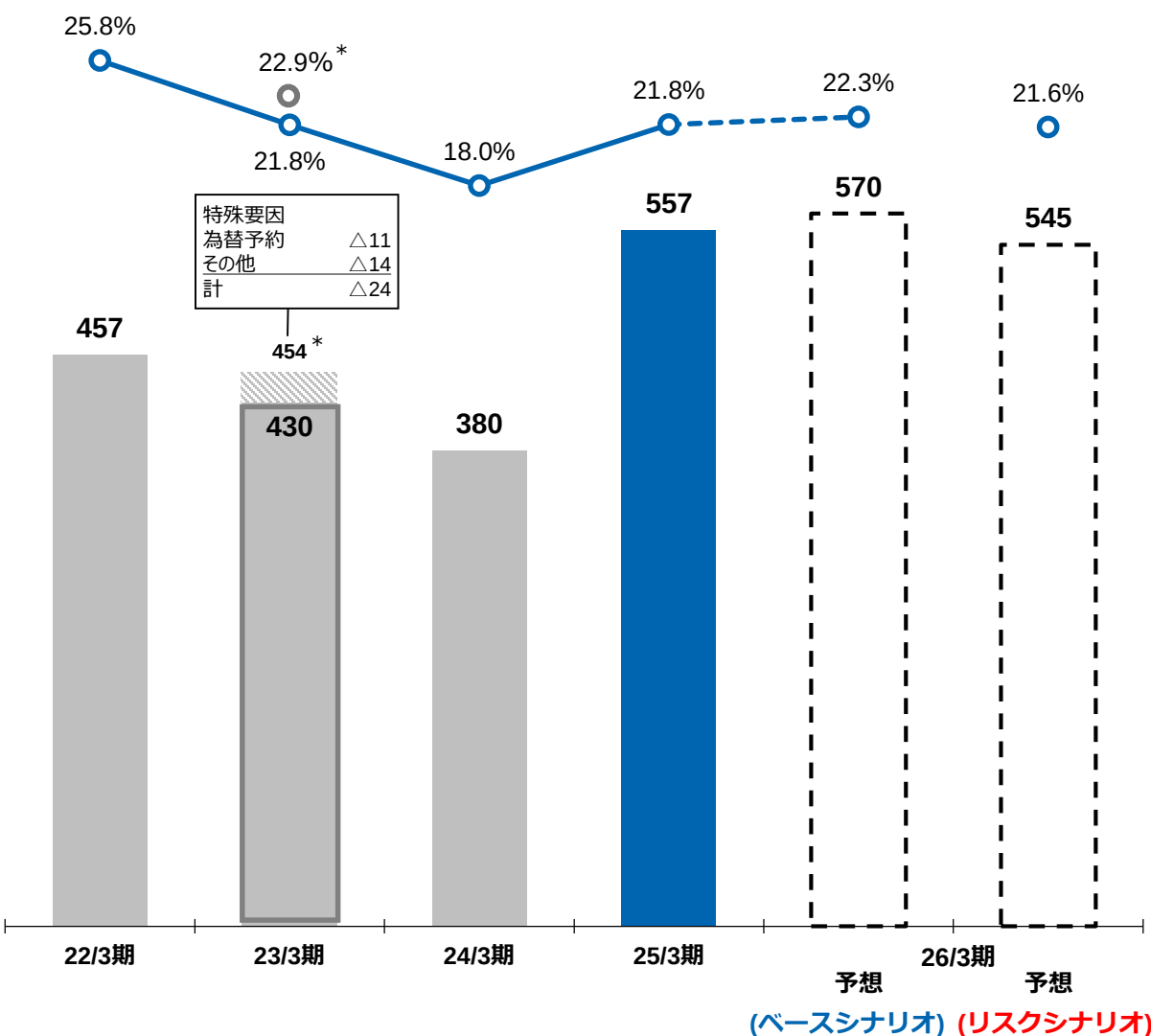
■ ボールベアリング ■ ロッドエンド・ファスナー ■ PMC



営業利益 (億円)

*特殊要因除く

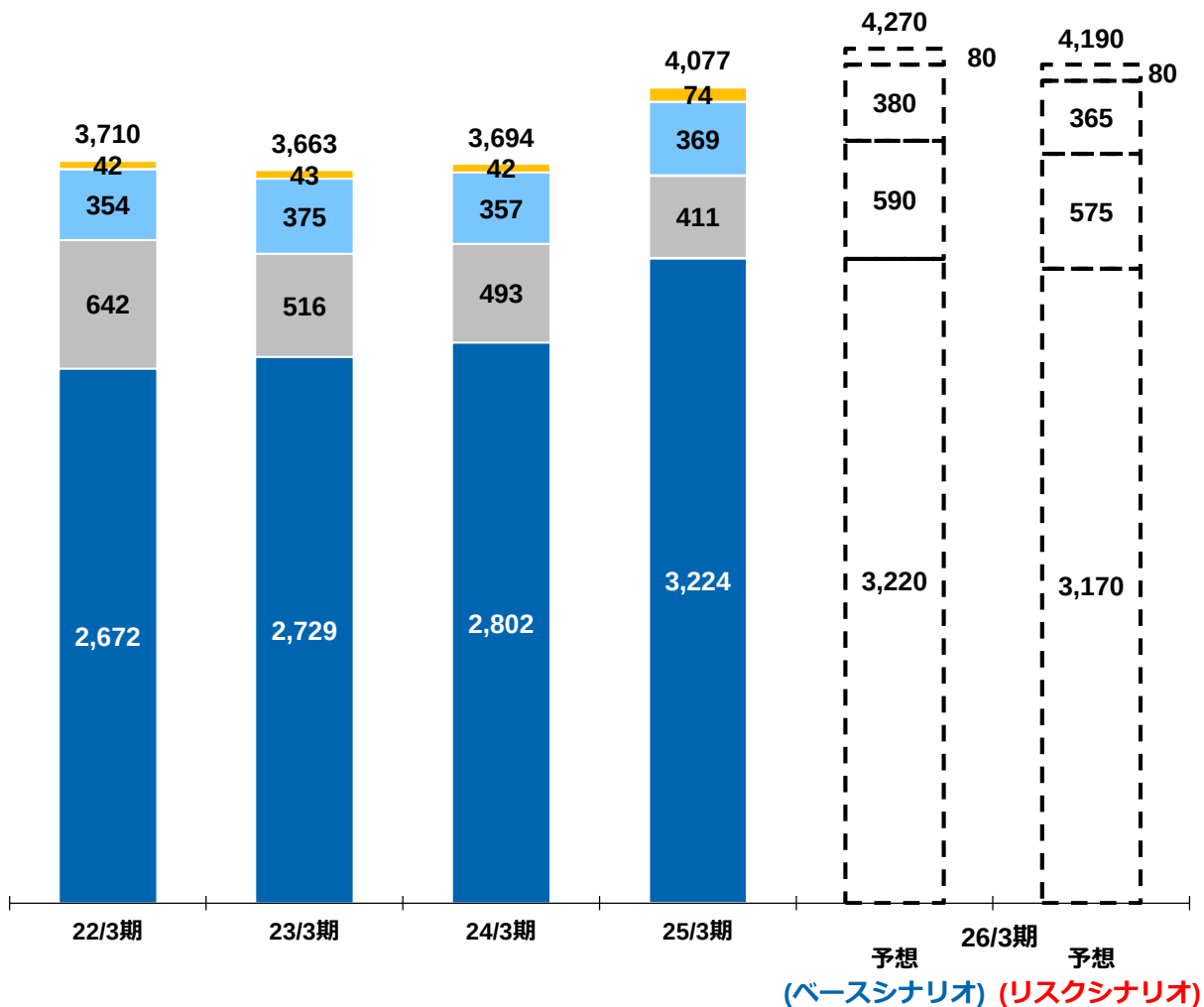
■ 営業利益 ○ 営業利益率



モーター・ライティング&センシング セグメント (MLS)

売上高 (億円)

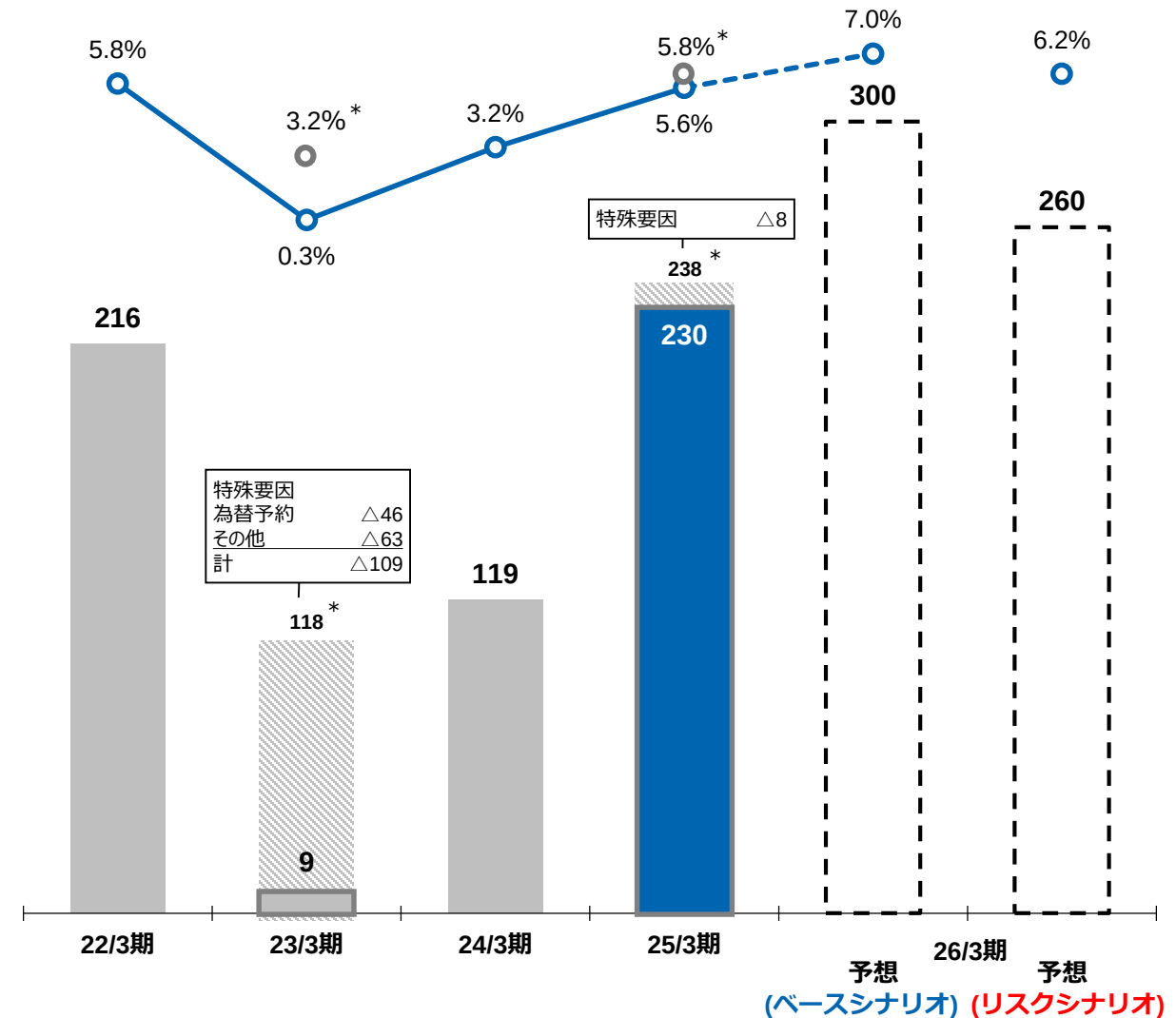
■ モーター ■ エレクトロデバイス ■ センシングデバイス ■ その他



営業利益 (億円)

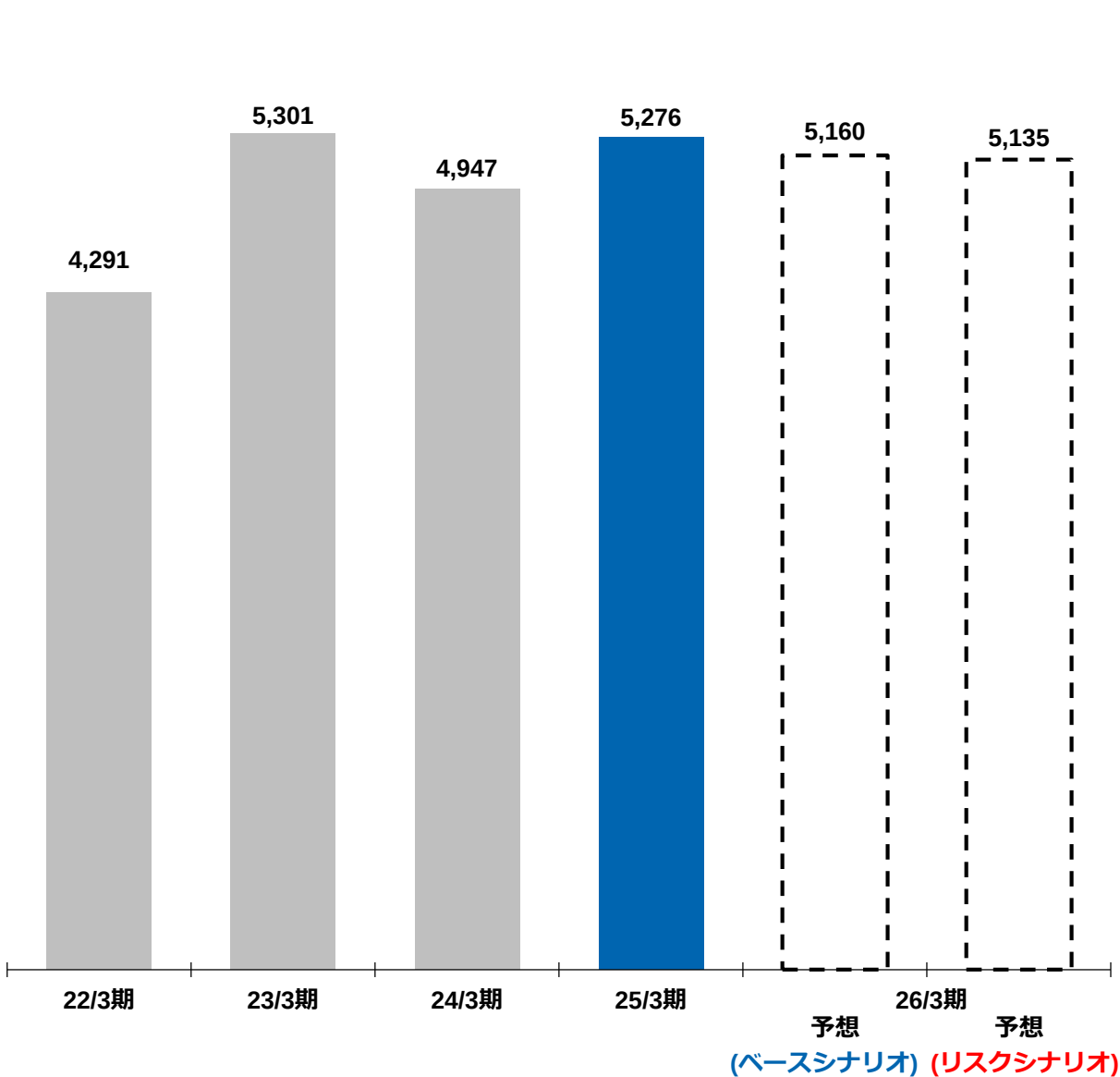
■ 営業利益 ● 営業利益率

*特殊要因除く



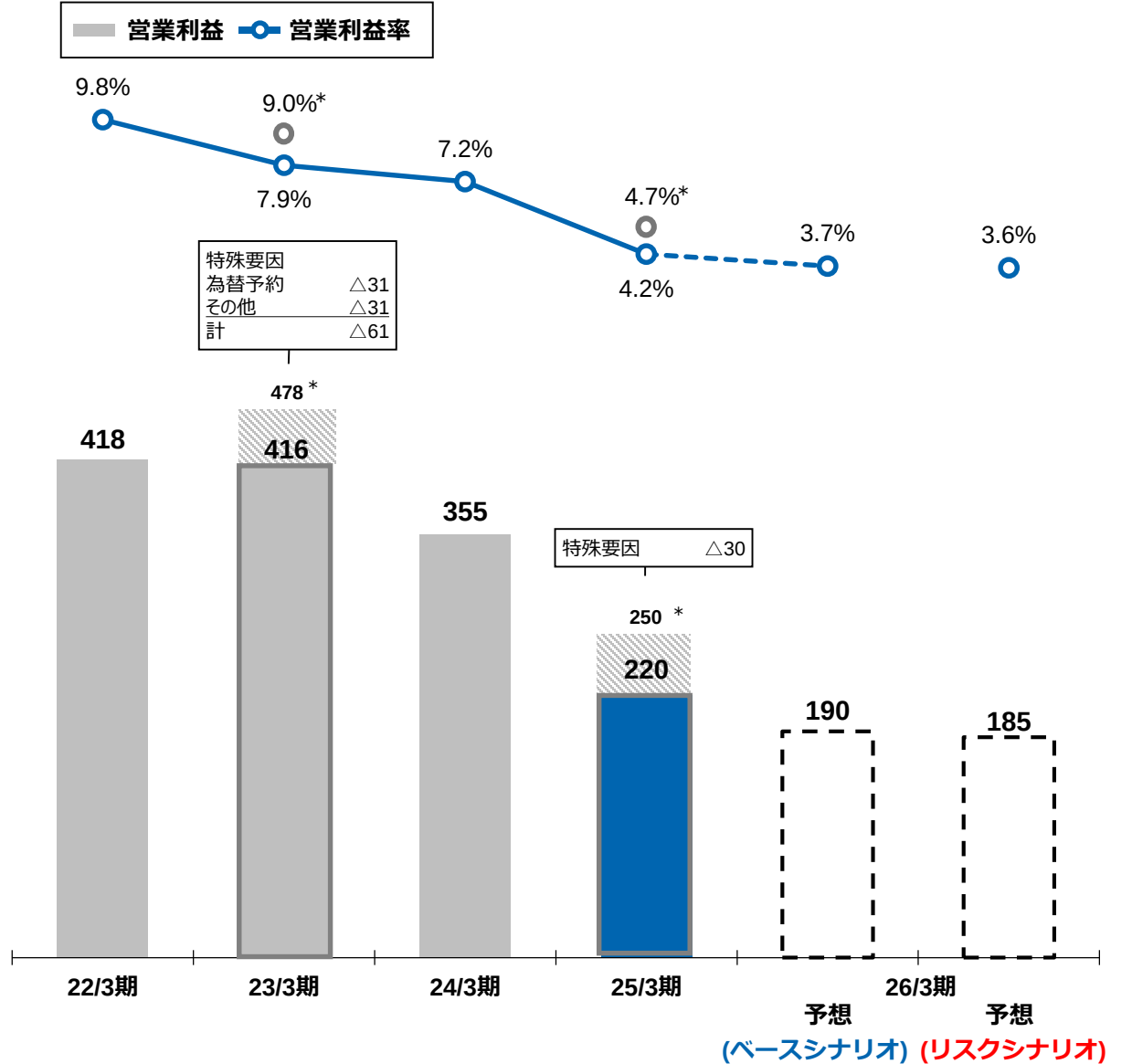
セミコンダクタ&エレクトロニクス セグメント (SE)

売上高 (億円)



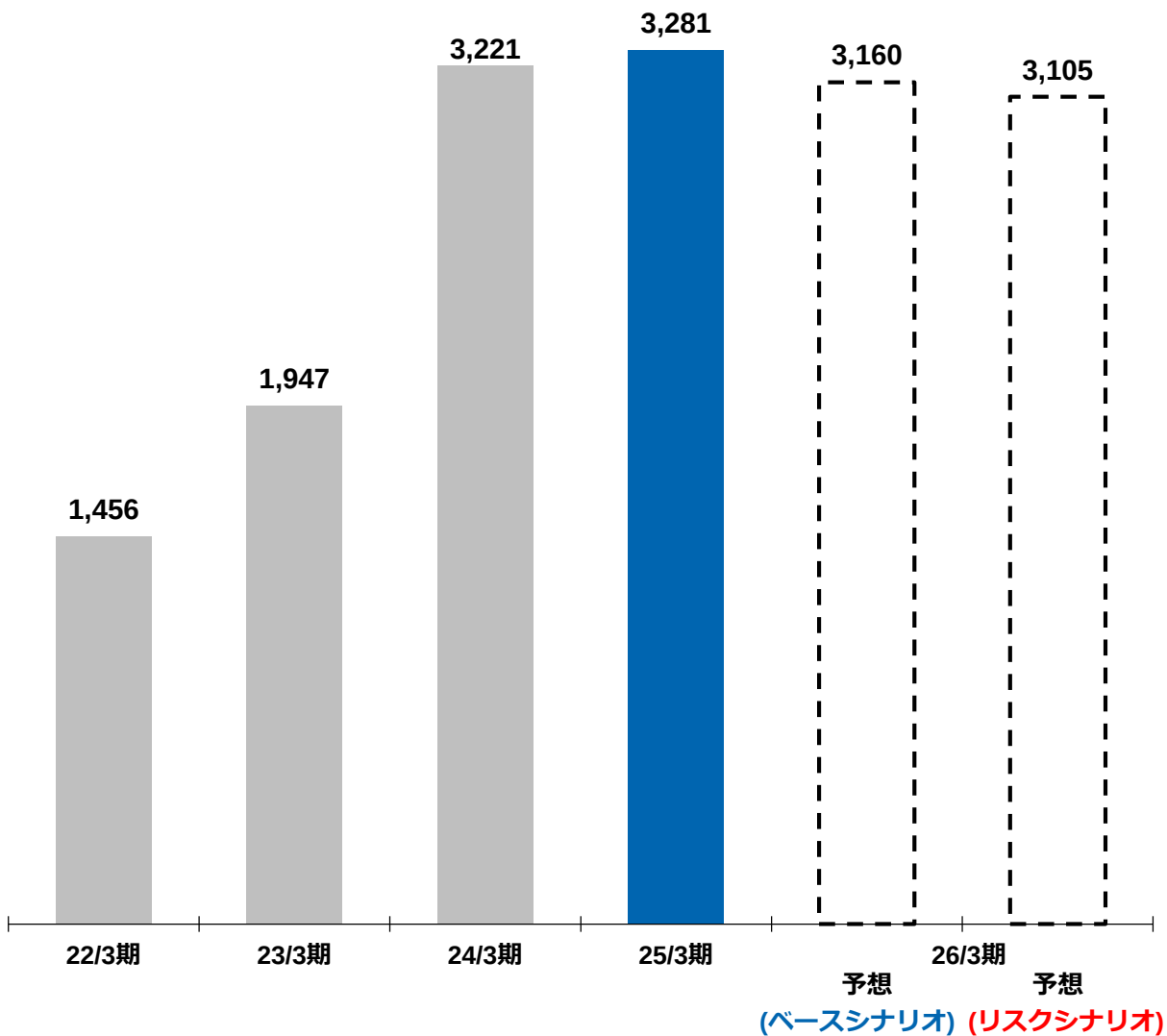
営業利益 (億円)

*特殊要因除く



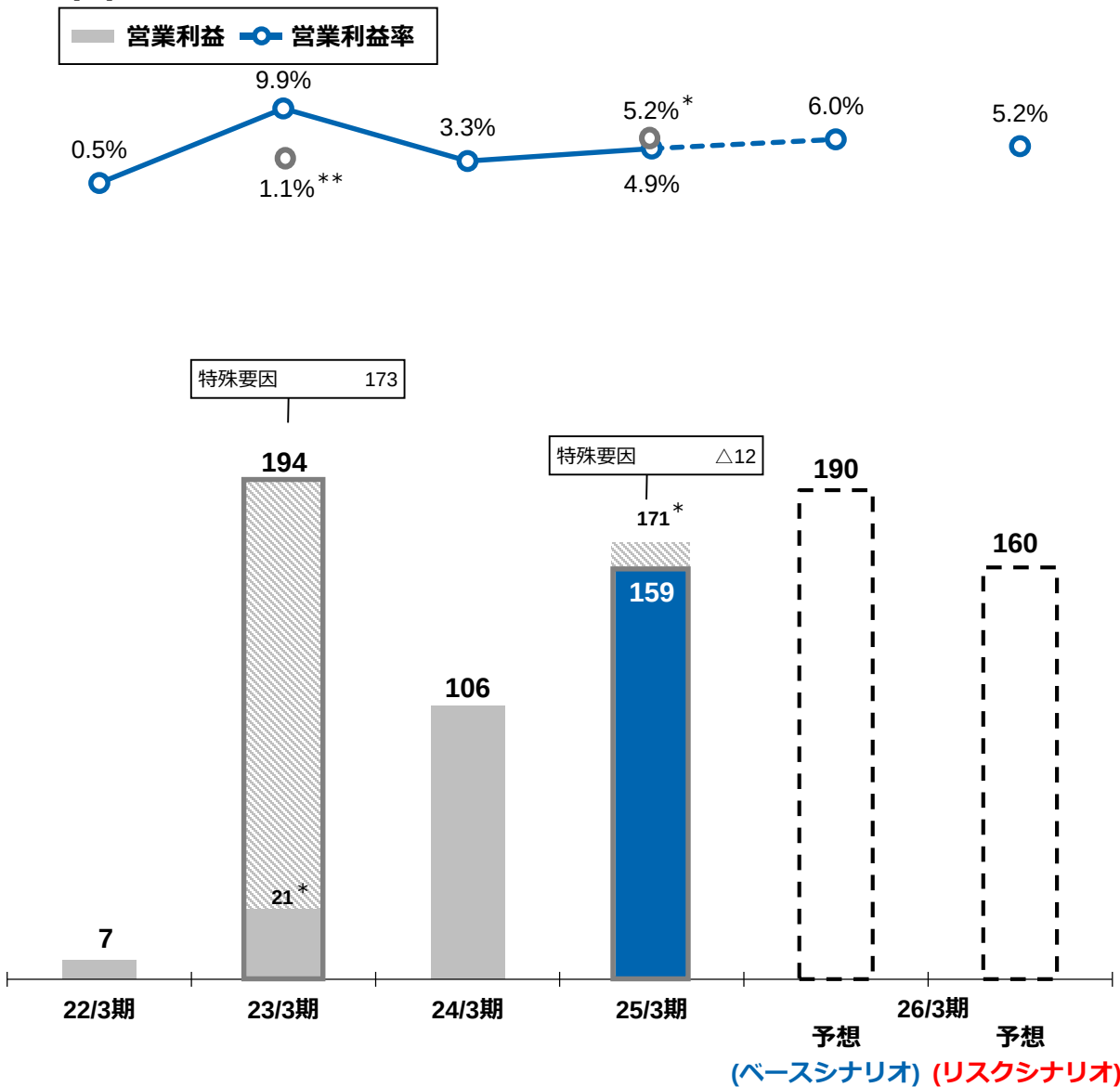
アクセスソリューションズ セグメント (AS)

売上高 (億円)



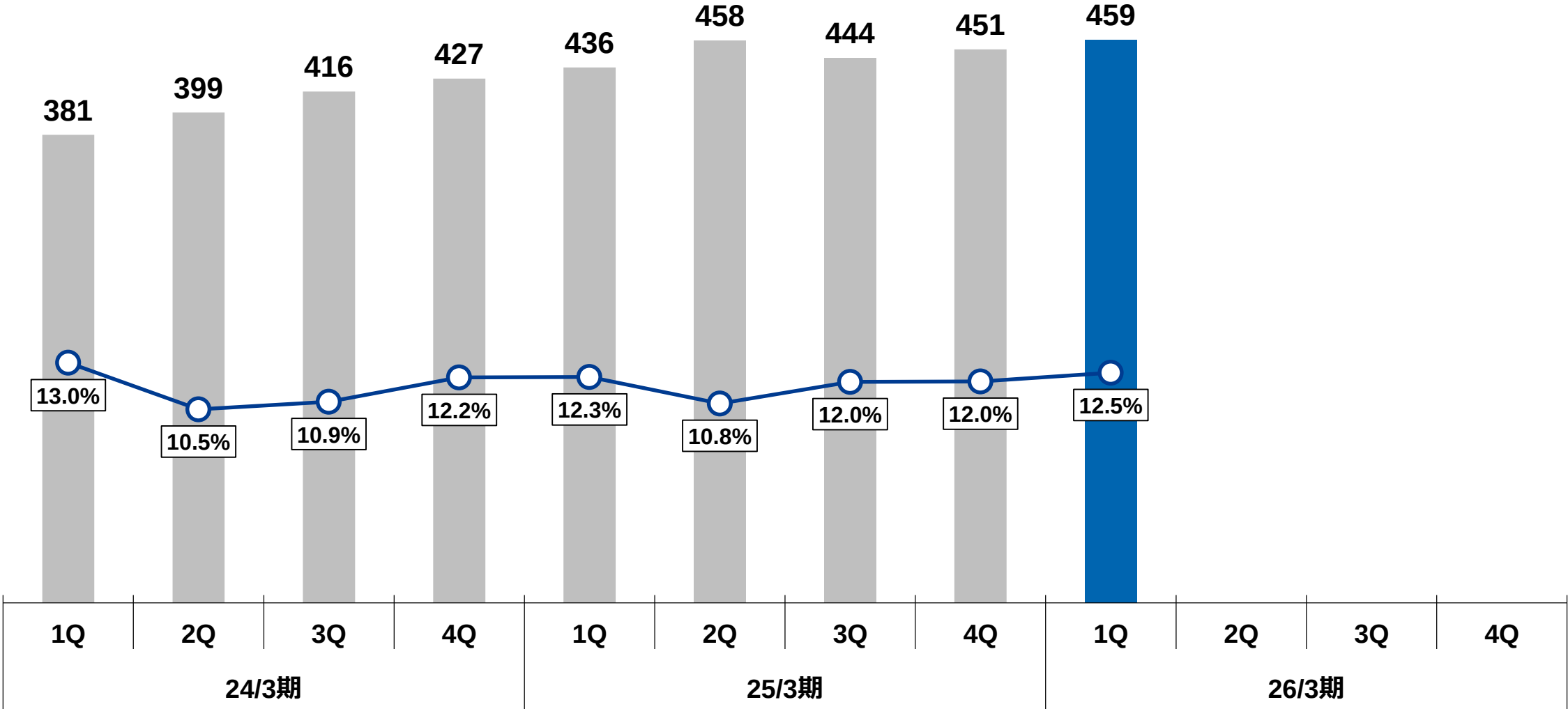
営業利益 (億円)

*特殊要因除く



販管費

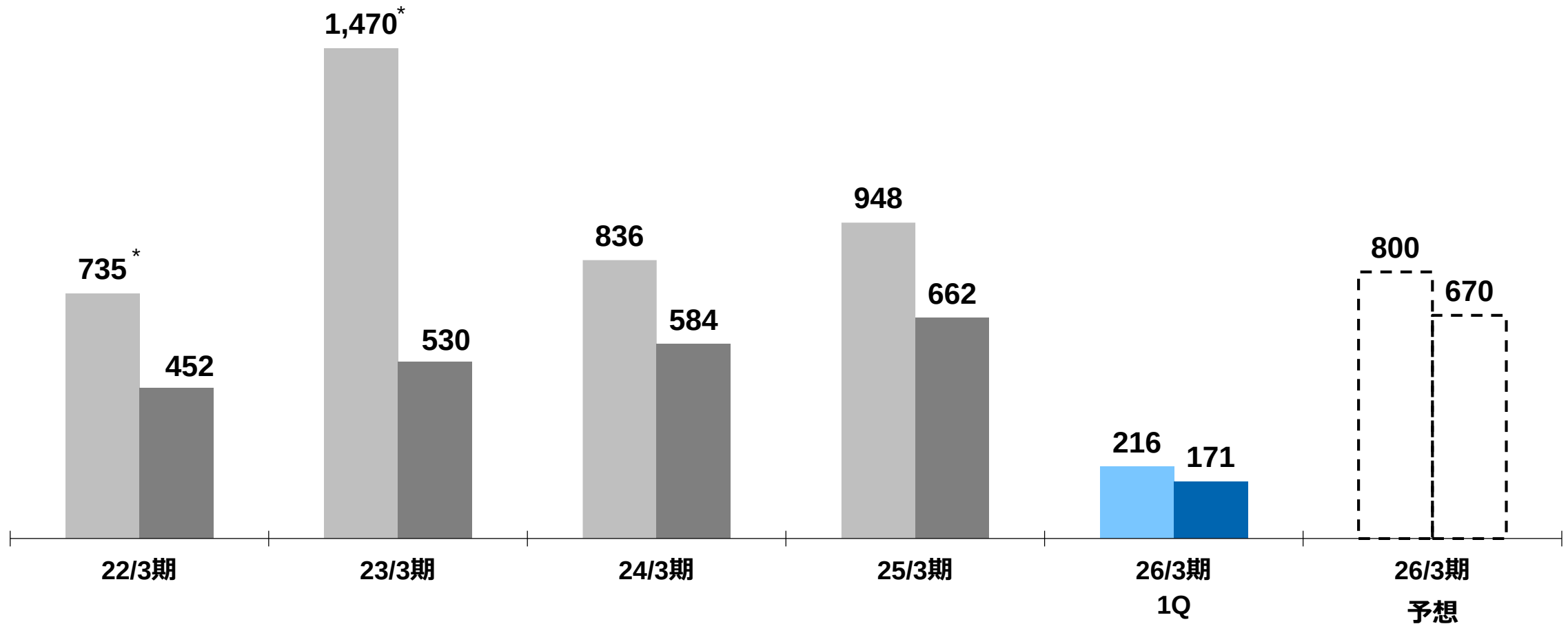
(億円) ■ 販管費 ● 売上高販管費比率



設備投資額・減価償却費

(億円)

■ 設備投資額 ■ 減価償却費



*22/3期、23/3期の設備投資額には、新本部ビル取得費用が含まれています。

ROIC（投下資本利益率）

ミネベアミツミ版
ROIC

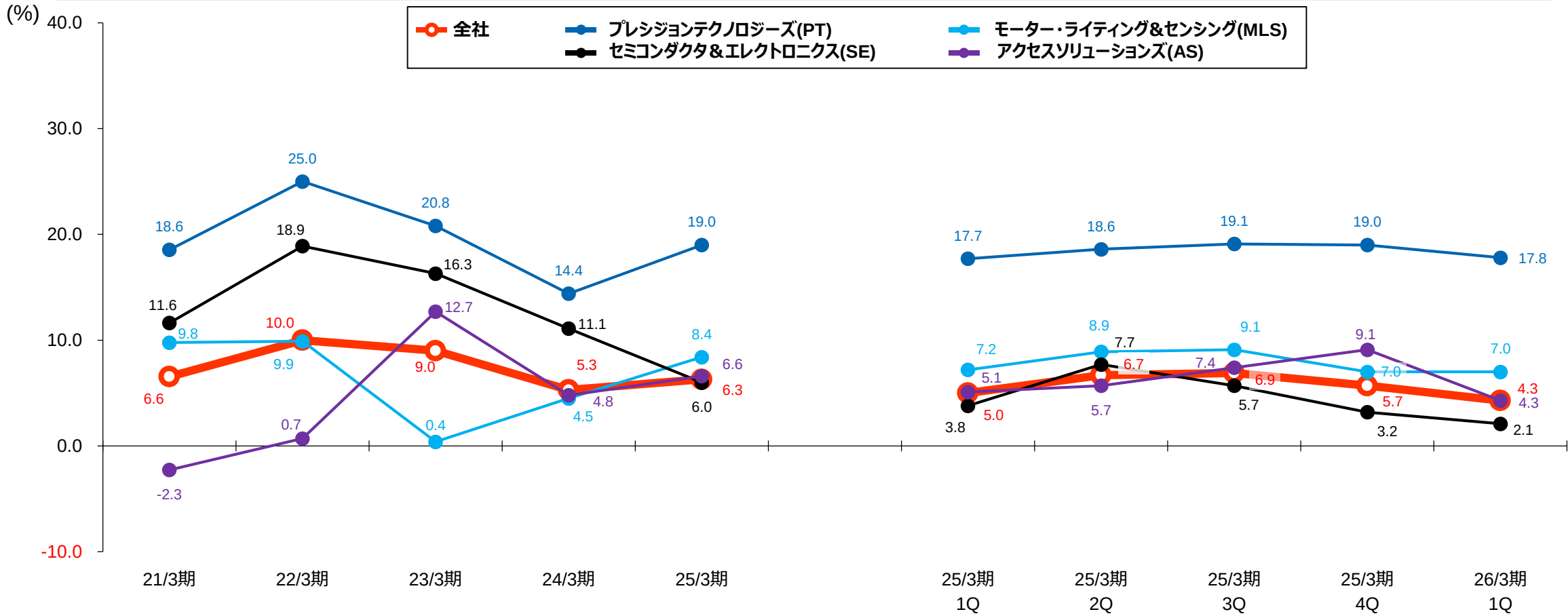
=

NOPAT
投下資本

営業利益 × (1 - 税率)

(受取手形・売掛金 + 棚卸資産 + 固定資産 - 支払手形・買掛金)

セグメント別で管理できる事業資産（売上債権・債務、棚卸資産、固定資産）で算出



※2025年3月期実績につき、セグメント変更による組み換えは考慮していません